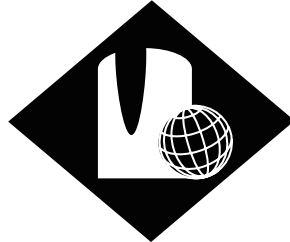


大阪歴史博物館年報

平成 23 年度



大阪歴史博物館

平成 24 年 6 月

目 次

はじめに	1
展観事業	2
資料収集	13
資料のデータ整備・貸出し・写真提供他	19
教育普及事業	20
学校連携事業	23
地域・その他連携事業	24
友の会関連事業	26
ボランティア関連事業	27
広報宣伝活動	28
刊行物	28
調査研究活動	29
委嘱・派遣依頼対応	34
視察対応	35
平成23年度入場者数	35
条例と規則	36
運営組織	39
施設の概要	40

大阪歴史博物館年報 平成 23 年度

平成 24 年 6 月 14 日発行 ©

編集・発行 大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前 4 丁目1-32

印刷・製本 タカダ印刷株式会社
〒547-0043 大阪市平野区平野東 1-1-29

ANNUAL REPORT
of
Osaka Museum of History
Jun. 2012

はじめに

平成23年度は3月に東日本大震災が発生したことで、社会にさまざまな影響や変革の動きがみられた一年であった。23年度は本館にとって開館10周年の年にあたり、これまでの活動を見直し今後の方向性を考える重要な年であった。本館ではこの機をとらえ二つのコンセプトで記念事業を実施した。ひとつは、10年間の取り組みを振り返ってこれまでの利用者に感謝し今後の利用者増を図るというものであり、もうひとつは新しい「博物館」のあり方を模索するというものであった。事業の詳細は本文に譲るが、学芸・総務の職員による10周年記念事業のプロジェクトチームを結成し、そこでの議論をベースに現代美術を取り入れた展示や体感的展示を導入するなど試験的な取り組みをおこなった。なお、本事業の成果と課題については検証会を実施し、その内容を報告書にまとめている。

23年度は財団法人大阪市博物館協会による指定管理が2年目に入った年でもあった。5つの博物館施設と1つの研究所から構成されるメリットを活かすとともに、外部機関と連携しながら魅力ある活動を具体的に作り上げ、市民に提供していくことが課題となった。そうしたなかで実現した事業のひとつに特別展「日欧のサムライたち」があげられる。これは本館と大阪城天守閣が共同で企画し、大阪市博物館協会も共催に加わった。法人内複数館による共同展示は本展が初めてである。

大阪市博物館協会が大阪市立大学と包括連携協定を締結したことにもない、両者による活発な連携事業も開始された。本館では文学部日本史研究室と共同で古文書講座を実施したが、その際テキストには本館館藏品を使用し、本館学芸員と市大の教員が講師を担当する形で綿密に連携し、盛況のうちに終えることができた。

また本年度は、本館を含むなわ活性実行委員会が文化庁の補助金を申請し、ミュージアム活性化支援事業として採択を受けた。それにより拡張現実の技術を用いたアプリケーション「AR難波宮」を開発し、来館者サービスの向上が実現できた。

続けて、23年度の事業概要について述べる。

調査研究活動については館内部の共同研究4本、基礎研究1本に加え、難波宮跡の発掘調査を実施した。また研究のための外部資金としては科学研究費4本が採択されている。学芸員がそれぞれの課題をもっておこなう研究についても活発に進められている。

展示活動では、まず特別展については5本開催した。うち「民都大阪の建築力」と「心齋橋 きもの モダン」は自主企画展であり、これらについては10周年記念特別展と位置づけた。特集展示については大阪にかかわる多彩なテーマを選び館藏品・寄託品・新出土資料を活用した展示をおこなった。常設展示についても展示替えによるミニテーマ展示がマスコミに取り上げられるケースも多くあった。なお、本年度の事業評価はその対象を常設展示とした。外部評価委員会による総評では、これまでの活発な活動実績に高い評価を受けた一方、より一層の質の高い事業運営と市民へのアピール、利用者増への働きかけが求められている。これらは常設展示にとどまらない指摘であり、中・長期的な視点に基づく館運営の構築が求められているといえよう。

教育普及事業としては講座・見学会などの多彩な活動を例年どおり実施した。また、本年度は外部団体との共催によるシンポジウムを多く開催し、市民に対する最新の研究成果の公開に積極的に取り組んだ。

広報宣伝活動では新たな利用者層の開拓を目的に、若い女性層をターゲットにした「えんそくのしおり」を刊行した。博物館では珍しい試みとしてマスコミ等で取り上げられた。ホームページへのアクセス件数も増加しており、幅広い利用者層への情報提供を一層努力する必要がある。

東日本大震災は地域社会の形成と存続のありかたを考える必要性を私たちに投げかけた。そうしたなかで歴史博物館が果たすべき役割は何なのか。またそれはどのようにしたら実現できるのか。現実を見つめ、課題を整理し、目標を定めて行動することが求められているといえよう。

展 観 事 業

概要

展示場は6～10階部分で、そのうち7～10階が常設展示、6階が特別展示場である。常設展示では、古代から近現代にいたる「都市・おおさか」の歴史を、実寸大再現・模型・大型映像等を用いた体験的展示と、各時代の豊富な実物資料の展示を通じて紹介している。観覧コースとして、実寸大再現や模型などを約1時間で観覧するハイライトコースと、実物展示資料も含め約半日で全てを観覧する全周コースを設定している。また情報検索端末を各フロアに設置し、観覧者が自らの関心に応じて学習を行えるようにしている。

常設展示

10階：古代フロア

◇「難波宮の時代」

ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿をほぼ実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を流している。また映像と映像とのインターバルには、展望窓から実際の史跡公園を展望することができる。

実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている5世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。



9階：中近世フロア

◇「大坂本願寺の時代」

中世の大坂の町の様子を、町並み、および大坂本願寺御影堂の復元模型や実物資料で紹介している。

◇「天下の台所の時代」

ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居の復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。

実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料により紹介している。



8階：「歴史を掘る」・特集展示室

◇「歴史を掘る」

発掘現場の再現を行い、ワークシートやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。

◇特集展示室

館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、1～2ヵ月程度の期間で実施している。



7階：近現代フロア

◇「大大阪の時代」

ハイライトコースでは、近代都市大阪の諸様相を、公設市場・町工場・「心ぶら」などの実寸大で再現している。

実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料によって、諸様相を多方面から紹介している。



難波宮跡遺跡展示

博物館・NHK大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）があった。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。床面には遺構の位置を表示しているほか、一部の遺構については地階に見学スペースを設け、実際に見ることができる。見学スペースの遺構については、保存状況を確認しながら定期的にメンテナンスを行っている。

また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群16棟のうち1棟が復元展示されている。学芸員とボランティアによるガイドツアー「難波宮遺跡探訪」を実施している。



タイムカプセル EXPO '70

昭和 45 年 (1970) 日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業により、当時の生活・文化を代表する 2,098 点の品々を収納したタイムカプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には 2 基が埋設されているが、当博物館の 1 階北東のエスカレーター奥にこれと全く同じものを展示している。



展示室への LED 照明の導入

・ 6 階特別展示場

壁面ケース内ファイバー照明 (調光可) A 室 : 3 ヶ所 6 台・B 室 : 3 ヶ所 6 台

平面形移動ケース ファイバー照明 : 20 台

天井部展示演出照明 (調光可) 及び展示作業用照明 A 室 : 464 台・B 室 : 348 台

展示室内演出用スポットライト (調光可) A 室及び B 室共用 : 70 台

・ 常設展示場 (7 階～9 階)

壁面展示ケース内スポットライト (調光可) 7 階 : 40 台・8 階 : 20 台・9 階 : 70 台・10 階 : 17 台

常設展示更新の状況

フロア	コーナー	展示物	展示期間
10	特設コーナー	古墳時代の土器作り、玉作り関連資料 (寺井)	7 月 6 日～10 月 3 日
10	特設コーナー	三宝寺跡伝承地 (東淀川区) 出土の縄文土器と寺院関係遺物 (寺井)	10 月 12 日～1 月 16 日
10	難波京の風景	難波宮北西の水利施設で出土した飛鳥時代の祭祀遺物 (寺井)	2 月 15 日～
10	特設コーナー	前期難波宮以前の瓦 (寺井)	2 月 15 日～
9	秀吉のまちづくり	豊臣後期の鍛冶工房関係資料 (寺井)	4 月 20 日～5 月 23 日
9	まちの生活	江戸時代の大坂を襲った地震と津波 (八木)	8 月 31 日～10 月 24 日
9	まちの生活	京大坂図屏風 (岩佐)	10 月 26 日～11 月 21 日
9・7	まちの生活・美術工芸の諸相	江戸時代と明治時代以降の雛人形ならびに調度 (中野)	2 月 1 日～3 月 12 日
7	近代都市の建設	関東大震災と大阪 (飯田)	5 月 11 日～9 月 19 日
7	メディアと流行	近代建築竣工記念絵葉書 (飯田)	6 月 8 日～8 月 29 日
7	都市の構造	大阪の衛生組合 (飯田)	7 月 20 日～9 月 19 日
7	メディアと流行	第 1 回普通選挙のチラシ (飯田)	8 月 31 日～9 月 26 日
7	上方芸能の展開	錦影絵 (澤井)	10 月 26 日～11 月 28 日
7	上方芸能の展開	松竹座のパンフレット類 (澤井)	10 月 12 日～11 月 28 日
7	メディアと流行	第 1 回普通選挙のチラシ (2) (飯田)	9 月 28 日～10 月 24 日
7	近代都市の建設	旧大阪府庁舎の建築 (酒井)	9 月 22 日～10 月 24 日
7	都市の構造	大阪城天守閣復興事業に寄付した人びと (飯田)	10 月 12 日～11 月 7 日
7	写真パネルコーナー	旧大阪府庁舎と旧大阪府庁舎跡発掘現場の写真パネル (酒井)	9 月 26 日～12 月 26 日
7	近代都市の建設	ビルディング時代の幕開け (酒井)	10 月 28 日～2 月 27 日
7	メディアと流行	岸和田の新聞 (飯田)	12 月 7 日～3 月 26 日
7	美術工芸の諸相	切嵌細工 (内藤)	12 月 21 日～2 月 13 日
7	近代都市の建設	南の大火と千日前 (飯田)	1 月 16 日～2 月 13 日
7	上方芸能の展開	生誕 100 周年 双葉山と大阪大国技館 (飯田)	2 月 29 日～3 月 26 日
7	美術工芸の諸相	大阪月山派の展開 (内藤)	3 月 14 日～7 月 9 日

1 階エントランスでの市内発掘調査成果の写真パネル速報展示

パネル展名称	展示期間	配布資料総計
後期難波宮の建物の基礎を発見 (宮本)	～4 月 16 日	900
大坂城南部で豊臣期の鍛冶工房を発見 (寺井)	4 月 18 日～10 月 10 日	2,350
幻の中世寺院 三宝寺を求めて (寺井)	10 月 12 日～1 月 23 日	3,750
絵図に描かれた集水枡を発見 : 大坂城跡 (寺井)	1 月 25 日～	1,600
孝謙天皇の東南新宮か? : 難波宮跡 (寺井)	1 月 25 日～	1,600

特集展示

8階の特集展示室では、常設展の魅力をより高めるため、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。以下では平成23年度に行った展示を紹介する。

■幕末大坂の絵師 森一鳳

会期:平成23年2月23日(水)～4月4日(月)
出品点数:約30点
担当:岩佐伸一

■上方舞・山村流

会期:平成23年4月6日(水)～5月23日(月)
出品点数:116点
担当:澤井浩一

山村流は江戸時代に創始され、上方舞四流のひとつに数えられる大阪の流派。現在も芸能界や花柳界、一般家庭に門下を育成している。流祖・初代山村友五郎(1781～1844)は役者出身で、大坂の歌舞伎で絶大な人気を誇った三代目中村歌右衛門(1778～1838)と親交があり、歌舞伎舞踊の振付をおこなった。そのため山村流は舞台舞踊として発展し、後に座敷舞へと展開していった。

本展では山村流の歴史、歌舞伎をはじめ他の芸能との関係などを、宗家所蔵の資料を中心に紹介し、舞の会、展示解説を関連行事として実施した。

◇おもな出品資料

寿三番叟・浦島 中むら鶴助 国広画 1枚
文政8年(1825) 山村流宗家蔵
三ツ面 安本亀八作 3面 山村流宗家蔵
山村流衣裳 1領 大正時代 本館蔵

◇関連するイベント

・山村流舞の会 4月9日・23日、5月21日

◇展示解説 4月10日、5月8日



■懐かしい市電とバスのある風景

会期:平成23年5月25日(水)～7月4日(月)
出品点数:180点
担当:船越幹央・伊藤純

大阪の市営交通は、明治36年(1903)の市電開業に始まり、バス・地下鉄など多彩な展開をみせた。

この特集展示では、大阪市交通局所蔵の資料調査にもとづき、その写真資料を中心に展観した。42点の写真に加え、ポスター・車両模型・グッズなどの同局所蔵品を展示し、あわせて当館所蔵の運転系統図・チラシ・切符・地図などの関連資料を展示した。それらを通して、明治30年代から昭和40年代にかけての市営交通の歩みを振り返るとともに、写真を読み解きながら大阪の街の風景を紹介した。展示は、「1. 市電、走る」「2. バス、登場」「3. 市電よ、永遠に」「4. 交通ポスター、いろいろ」の4コーナーで構成した。

◇おもな出品資料

写真「停車する二階つき電車」
ポスター「市営地下鉄梅田難波間全通」
模型「市電第1号電車」
以上、いずれも大阪市交通局蔵

◇関連するイベント

・鉄道模型ジオラマ大会 6月25日、26日
(協力:たかきや鉄道クラブ)

◇展示解説

5月28日、6月25日



■新発見！なにわの考古学 2011

会期:平成 23 年 7 月 6 日 (水) ～ 10 月 3 日 (月)

出品点数:約 300 点

共催:大阪市博物館協会大阪文化財研究所

担当:池田研、大阪文化財研究所(清水和明・高橋工・宮本康治)

この特集展示では、平成 21・22 年度に行った大阪市内の遺跡発掘調査の中から、古墳時代の初期須恵器窯(難波宮跡)、飛鳥時代の前期難波宮の壁土(難波宮跡)、難波京とその条坊制の存在を示唆する奈良時代の橋(上本町遺跡)、江戸時代の国産磁器の最高峰に位置付けられる鍋島焼(佐賀藩蔵屋敷跡)など、主要な成果を約 300 点の出土資料と発掘現場の写真パネルで紹介した。またテーマ展示では、かつて輸出産業の花形であった、近現代の貝ボタン産業と大阪の係わりについて、遺跡から出土した製造過程の廃材から、現代の貝ボタン製品まで、幅広い資料を通して紹介した。

◇おもな出品資料

前期難波宮の宮殿の壁土(中央区難波宮跡 飛鳥時代)

奈良時代の橋が見つかった谷出土の土器群(天王寺区上本町遺跡 奈良時代)

鍋島焼(北区佐賀藩蔵屋敷跡 江戸時代)

以上、いずれも大阪市教育委員会蔵

◇関連するイベント

- ・講演会「大阪の歴史を掘る 2011」8 月 14 日
- ・体験イベント「奈良時代の大きな甕に触れてみよう」7 月 31 日、8 月 28 日

◇展示解説

7 月 24・31 日、8 月 14・28 日



■古文書からみる大坂の町

会期:平成 23 年 10 月 5 日 (水) ～ 12 月 5 日 (月)

出品点数:約 30 点

担当:八木滋

古文書は過去の社会のようすを知るうえで欠かすことのできない歴史資料であるが、くずし字で書かれていて読めないとか、文字だけではイメージがわからないといった理由で、一般の方々には馴染みにくい存在である。しかし、その形式や機能に留意し、あるいは書かれている内容を具体的にイメージしながら読んでいくと、過去の社会を生きたとの感じが生き生きと浮かび上がってくる。

本展では、当館の館蔵・寄託資料のなかから、江戸時代の大坂の町に関する古文書を、町人になる・町役人のしごと・町のくらし・商家のようすなど、いくつかのテーマに分けて、宗旨巻など大坂に特徴的なものを中心に、古文書に馴染みのない方々にも興味をもっていただけるよう、関連資料も含めてわかりやすく展示した。

◇おもな出品資料

北久太郎町二丁目宗旨巻 寛文 9 年 (1669)

難屋町丁内諸用記 天保 13 年 (1842)

新撰増補摂州大坂大絵図 貞享 4 年 (1687)

◇展示解説

10 月 8・15・23・30 日、11 月 5・13・26 日、12 月 4 日



■撰河泉の古瓦

会期：平成23年12月7日(水)～平成24年2月13日(月)

出品点数：約120点

共催：大阪市博物館協会大阪文化財研究所

担当：加藤俊吾・酒井一光

現在大阪歴史博物館には多くの瓦コレクションが収められてきた。特に中世の和泉や河内などの地域で発見された瓦コレクションには、いまなお詳細が不明なままの寺院跡とされる場所からみつかった瓦も見受けられる。また寺院以外にも、共同墓地に建っていた建物で使用されていた瓦と考えられるものもあり、寺院と墓地を繋げる手がかりとして注目される。

今回は、これら大阪歴史博物館所蔵の古瓦コレクションと、大阪市内の出土品から、古代から中世にかけてのものを展示した。特に中世瓦のコレクションからははじめての出品となるものもあった。展示は、1. 撰津の古瓦と寺院、2. 和泉の古瓦と寺院、3. 河内の古瓦と寺院、4. その他の地域の各テーマで構成した。

◇おもな出品資料

宝塔文軒丸瓦 堺市仏光寺跡 平安時代 8世紀末～12世紀末 大阪歴史博物館蔵
連珠文軒平瓦 東大阪市岩田墓地 鎌倉時代前半 13世紀 大阪歴史博物館蔵

◇関連するイベント

- ・「大阪歴史博物館所蔵古代・中世瓦の採集地をめぐって」(なにわ歴博講座の1回として)
1月27日

◇展示解説

12月17日、1月21日、2月4日



■特集展示 「装剣奇賞」出版230年記念

刀装 根付 細密工芸の華

会期：平成24年2月15日(水)～4月2日(月)

出品点数：124点

特別協力：日本根付研究会・浪速装剣小道具研究会

担当：内藤直子

平成23年(2011)は、天明元年(1781)に「装剣奇賞」が大坂で出版されてから230年目の節目の年であった。同書は、刀装具や根付といった細密工芸に関する初の本格的な手引書として、刊行後現在に至るまで数多くの後続関連書に影響を与えてきたが、本書そのものやそれを著した筆者・稲葉通龍についてかえりみられることはほとんどなく、埋没した存在となっていた。

本展は、江戸時代の細密工芸作品を求め、また研究する人たちの道しるべとして大坂で編纂・出版・成立した本書の特色を紹介するとともに、同書が紹介する作家による刀装具作品、根付作品、金工師や根付師の手になる絵画作品など、約100点を展示し、江戸時代後期の華やかな細密工芸の世界を紹介した。

◇おもな出品資料

『装剣奇賞』開板出願本(大阪府立中之島図書館蔵)
『装剣奇賞』初版本(住吉大社蔵)

◇関連するイベント

- ・記念講演会 「『装剣奇賞』の成立と稲葉通龍について」4月1日



第40回特別展

幕末・明治の超絶技巧 世界を驚嘆させた金属工芸

—清水三年坂美術館コレクションを中心に—

会 期：平成23年4月13日（水）～5月29日（日）

協 力：清水三年坂美術館

開催日数：41日間

入場者数：21,426人

出品点数：約170点

図 録：A4判164頁

担 当：内藤直子・杉本厚典

幕末・明治という時代は、日本の美術工芸の世界に大きな変革をもたらした。中でも金属工芸は、永く刀装金工を中心に発展してきたが、幕藩体制の崩壊とその後の廃刀令（明治9年：1876年）によって、大きな後ろ盾を失った。しかし刀装金工たちは、自らの技術を芸術世界に高めることでその生き残りを図る。

帝室技芸員としてこの時期の金工界を牽引した加納夏雄（かのうなつお）と海野勝珉（うんのしょうみん）、そして岡山の地で細緻な技を極めた正阿弥勝義（しょうあみかつよし）、また、塚田秀鏡（つかたしゅうきょう）、香川勝広（かがわかつひろ）ら、刀装金工から彫金芸術の世界へと大きく飛躍した彼らが制作した、想像を絶するほどの細密な作品は、国内はもちろん海外の美術愛好家に驚きをもって受け止められた。その結果、多くの作品が海外へとわたることとなった。

清水三年坂美術館は、このように海外で評価された幕末・明治期の工芸作品を国内で再評価することを願い、設立された。今回の展覧会では、その清水三年坂美術館の所蔵作品を中心に、変革の時代に新たな芸術をめざし制作された金属工芸の名品約170件を紹介する。



◇おもな出品資料

- 群鶏図香炉 正阿弥勝義作 明治時代
 - 蓮葉に蛙皿 正阿弥勝義作 明治時代
 - 草花文香炉 駒井製 明治時代
 - 自在置物 鷹 板尾新次郎作 明治時代
- 以上、いずれも清水三年坂美術館所蔵

◇関連するイベント

- 写真パネル展 3月2日～5月29日
- シンポジウム「近代工芸と”地方”をめぐる諸問題」1回
- 親子ワークショップ「海老の自在置物をつくろう」2回
- 展示解説 1回

第41回特別展

大阪歴史博物館 開館10周年記念 特別展 民都大阪の建築力

会 期：平成23年7月23日（土）～9月25日（日）

開催日数：55日間

入場者数：15,045人

出品点数：174件 276点

図 録：A4判 138頁

担 当：酒井一光・飯田直樹

後 援：NHK大阪放送局、社団法人 日本建築家協会、社団法人 日本建築学会、社団法人 日本建築協会、社団法人 日本建築士会連合会、社団法人 日本建築士事務所協会連合会

近代の大阪では、民間の手による事務所や百貨店などで、時代の先端を行くデザインの建築が数多くつくられた。また、大阪市中央公会堂や大阪城天守閣などの公共建築でも、設計競技や市民の寄付により、優れた構造・意匠と豊かな細部装飾を持つものが生まれた。これらの建築は、いまも大阪のシンボルとして親しまれている。

本展覧会では、大阪の近代建築の魅力を、建築家の図面に表現された「描く力」、建築細部を魅力的なものとする「装飾の力」、そして建築を愛するオーナーや美術家らによる「伝える力」の三つの視点から紹介した。本展示は、当館における調査研究や資料収集の成果に加え、近代建築のオーナーらの協力のもとに実現することができた。

会期中には展示解説のほか、大阪城天守閣や旧第四師団司令部庁舎の見学会、講演会やコンサートを実施した。また会場では小学生向けのワークシートやぬりえを作成し、さまざまな世代の観覧者に向けて大阪の近代建築の魅力を紹介した。

◇おもな出品資料

- ・大阪市公会堂設計競技1席 岡田信一郎案透視図 明治45年～大正元年（1912）大阪市中央公会堂蔵
- ・大阪城天守閣新築設計図 昭和4～6年（1929～31）大阪城天守閣蔵
- ・旧鴻池本店ステインドグラス 大正3年（1914）株式会社 鴻池組蔵
- ・島野三秋作「旧そごう大阪店エレベータ漆螺鈿装飾扉」昭和10年（1935）株式会社 大丸松坂屋百貨店蔵
- ・伊達伸明作「美章園温泉ウクレレ」伊達伸明氏蔵

◇関連するイベント

- ・写真パネル展 5月30日～9月25日
- ・特別講演会「世界の中の20世紀大阪の建築」
- ・鑑賞講座「ステインドグラスのみかた・楽しみ方」
- ・トークとミニ・コンサート「建築物ウクレレ化保存計画」
- ・見学会 2回
- ・特別展を楽しむための連続講座 2回
- ・展示解説 8回
- ・通天閣ロボがやってくる！ 握手会&撮影会



第42回特別展

開館10周年記念特別展 心齋橋 きもの モダン —煌めきの大大阪時代—

会 期：平成23年10月15日（土）～12月4日（日）

開館日数：44日間

入場者数：22,769人

出品点数：154件 193点

図 録：A4判 144頁

担 当：中野朋子・八木滋・船越幹央

特別協力：大阪市立近代美術館建設準備室

本展覧会は、大阪が「大大阪」と呼ばれた大正末期から昭和初期の大阪・心齋橋筋のありかたやここから発信されたファッション、ライフスタイルに注目したものである。

大阪の中心市街である心齋橋筋は、江戸時代から呉服を中心として発展、明治維新後もその地位を確固としたものとし、呉服商や関連の小物を扱う店舗、結髪や化粧の用品を扱う店々に至るまで、きものや装飾品にまつわる店舗が並び立っていた。

この心齋橋の繁栄がひとつの頂点を迎えたのは、大阪が最も市域を拡大し、大大阪の時代と呼ばれた昭和戦前期であった。当時の心齋橋筋は大阪随一の繁華街として、カフェや百貨店が華やかに営業し、先鋭的な広告デザイン、華やかなショーウィンドウのディスプレイがあふれた。心齋橋にあふれたモダニズムの雰囲気は同時代を生きる人々のライフスタイルに大きな影響を及ぼし、心齋橋筋の賑わいは、東京・銀座のそれになぞらえて「心ぶら」と呼ばれる逍遙風景を生んだ。そうした心齋橋筋の歴史を紹介した。

展示構成は、「第1章 モダニズム心齋橋へようこそ」、「第2章 描かれた《日常》と《きもの美》の世界」、「第3章 新しい女性美の創出—進化する化粧・美容術と巧みな広告戦略—」、「第4章 きもの×モダン 心齋橋モードの発信」、「第5章 変わりゆくきもの業界—百貨店と小売店 それぞれの情報発信—」、「第6章 心齋橋（筋）小史」とした。



◇おもな出品資料

- ・秋立つ 高橋成薇作 昭和3年（1928） 大阪市立近代美術館建設準備室蔵
- ・桔梗撫子文単衣 昭和10年代 大阪歴史博物館蔵（宮里圭子氏寄贈）
- ・マッチラベル 昭和初期 個人蔵

◇関連するイベント

- ・写真パネル展 10月12日～12月4日
- ・「書物と音楽・大阪モダニズム」（講演会と演奏会）
- ・講演会「モダニズムを生きる女性たち」3回
- ・「モダン大阪音楽會」（特別展会場内での演奏会）

第43回特別展

没後50年・日本民藝館開館75周年 柳宗悦展 —暮らしへの眼差し—

会 期：平成24年1月7日(土)～2月29日(水)

協 力：日本民藝協会

開催日数：46日間

入場者数：26,658人

展示点数：約400点

図 録：AB判192頁

担 当：伊藤純・杉本厚典

柳宗悦は1889年(明治22)に東京に生まれた。1910年(明治43)に雑誌『白樺』の創刊に参加し、『白樺』の中心的なメンバーとして活躍中の1914年(大正3)、朝鮮の小さな壺〔染付秋草文面取壺〕を贈られた。これを機に、1916年(大正5)27歳の宗悦は、親しい友人を訪ねて韓国に渡った。

その地で、名もない職人が作り出した焼物や工芸品に健康的な美しさがあることを知る。その後、日本国内にも目を向けた柳は、日本にも手作りの美しい器・着物・道具などがたくさんあることに気付き「民芸」という新しい言葉を生み出した。

1936年(昭和11)に、自らが集めた「民芸品」を展示する美術館・日本民藝館を東京駒場に創設した。

今回の特別展では、柳宗悦が集めた美しい「民芸品」や柳と行動をともにした友人たちの作品など約400点の作品・資料を展示した。

あわせて、日本民藝館の館長をつとめたプロダクトデザイナーとして活躍した宗悦の長男・柳宗理(1915～2011)の仕事も紹介した。

◇おもな出品資料

- ・竹梅鶴文様紅型衣装(首里)
- ・芯切鉄(京都府)
- ・ガレナ釉筒描山羊文皿(バーナード・リーチ)
- ・鉄釉双耳仏花器(苗代川)
- ・鉄地鉛象嵌長生文六角筆筒(朝鮮半島)
- ・マキリ(北海道アイヌ)

◇関連するイベント

- ・写真パネル展 12月5日～2月29日
- ・記念公演会「柳宗悦・河井寛次郎・濱田庄司が歩いた道 韓国をふたたび歩く」1回
- ・音楽会「大正ロマンの歌声 一夫の民芸運動を支えた声楽家柳兼子に想いをよせて」1回
- ・展示解説 3回

開館時間	午前9時30分～午後5時(金曜日は午後4時まで)	主 催	大阪歴史博物館
休 日	日曜日・祝日	協 賛	NHK大阪放送局
観 覧 料	大人1,000(900)円、高校生700(630)円	協 賛	NHKアールエフエヌ
【特別展観覧券】	大人1,500円(1,400)円、高校生1,030(990)円	協 賛	日本民藝館
※1) 内訳(大人1,000円)：観覧料(800円)＋特別展観覧券(200円)		協 力	日本民藝協会
※2) 特別展観覧券は、大阪府民館長(柳宗悦)の遺稿(複製)を基に制作されたものである。		制作協力	NHKプロモーション

第44回特別展

大阪城・エッゲンベルグ城友好城郭提携3周年記念
大阪城天守閣・大阪歴史博物館合同自主企画特別展

日欧のサムライたち —オーストリアと日本の武器武具展—

会 期:平成24年3月24日(土)～5月6日(日)

開催日数:8日間(3月24日～3月31日)

入場者数:3,779人(3月24日～3月31日)

展示点数:84点

図 録:A4判40ページ

担 当:池田研・大澤研一

主 催:大阪市、財団法人大阪市博物館協会・
大阪城天守閣・大阪歴史博物館

共 催:読売新聞社

後 援:NHK大阪放送局

オーストリア第2の都市グラーツのエッゲンベルグ城の一室を飾っていた絵画が、豊臣時代の大坂城と城下町を描いた屏風であることが明らかとなったことを機に、平成21年に締結された大阪城とエッゲンベルグ城の友好城郭提携の3周年を記念して開催された特別展である。

展示構成はシュタイヤーマルク州立博物館ヨアネウムなどに所蔵される神聖ローマ帝国の16～17世紀の武器武具や、当時のエッゲンベルグ城の姿や戦闘の様子を伝える版画など46点と、大阪城天守閣が収蔵する室町時代から江戸時代を主体とする合戦図屏風や武器武具など38点からなる。大阪城天守閣との緊密な協力体制のもと、露出展示や4面ケースなどを活用しながら、東西の歴史・文化・戦闘方法をわかりやすく比較、紹介することに努めた。

◇おもな出品資料

- ・ 貴人の四分の三身甲冑 ブラックアンドホワイトデザイン

- ・ 剣

- ・ マッチロック式マスカット銃

以上、シュタイヤーマルク州立博物館ヨアネウム武器庫蔵

- ・ 色々威二枚胴具足

- ・ 刀 銘 吉廣作/和泉国

- ・ 大火縄銃 銘 榎並屋勘左衛門 大てんぐ 十匁式分

- ・ 長篠合戦図屏風

以上、大阪城天守閣蔵

◇関連するイベント

- ・ オープニングコンサート 3月24日



資料収集

資料収集

平成23年度は、購入・寄贈によって新たに408件2,451点の館蔵品を加えた。内容は以下の一覧の通りである。これらの資料収集にあたっては、外部委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●平成23年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	1,001	0	0	1,001
美術	294	4	0	298
考古	0	0	0	0
民俗	113	0	0	113
芸能	1,018	0	0	1,018
建築	21	0	0	21
	2,447	4	0	2,451

●館蔵品総点数（平成24年3月31日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	65,610	9,124	86	74,820
美術	5,121	1,622	3	6,746
考古	7,020	4,765	6,178	17,963
民俗	4,520	2,485	2	7,007
芸能	8,640	1,029	3	9,672
建築	5,098	0	27	5,125
	96,009	19,025	6,299	121,333

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

新収館蔵資料一覧

購入

●美術

魚楽図屏風（朝鮮通信使関連資料）	8 曲 1 隻
虎図屏風（朝鮮通信使関連資料）	8 曲 1 隻
神仙図屏風（朝鮮通信使関連資料）	8 曲 1 隻
平生図屏風 劉淑筆（朝鮮通信使関連資料）	8 曲 1 隻

寄贈

●歴史

◇阿原靖子氏寄贈	
大阪市地図（住友系企業所在地明示）	4 枚
連合軍関係貨物証明書（未使用）	1 枚
慰問袋	1 点
大阪港開港記念日・臨海工業地域造成事業起工記念 扇子セット	1 式
大阪港開港記念日・臨海工業地域造成事業起工記念 扇子（大）	1 点
新世界東郷鮓店ちらし	1 枚
天災地変怪異画集（科学画報第 26 巻第 1 号附録）	1 冊
レコード竹針用カッター	1 点
大阪市御津尋常小学校絵葉書	4 枚

◇池上幸子氏寄贈

シンガーミシン	1 台
---------	-----

◇大路常次氏・武内文子氏寄贈

手形掛幅	1 幅
紀元節奉祝会感謝状	1 通
紀元節奉祝会感謝状	1 通
在郷軍人会感謝状	1 通
国防婦人会感謝状	1 通
国防婦人会名誉会員授嘱書	1 通
国防婦人会感謝状	1 通
飛行協会表彰状	1 通
軍人後援会感謝状	1 通
浜田・阪部・田中・鈴木先生栄転及退職記念品料 贈呈者芳名一覧表	1 枚
佐藤寿夫氏退職記念品料贈呈芳名一覧表	1 枚
大阪市防空費献金寄附者芳名一覧表	1 枚
勘定帳	15 綴
財産目録	1 綴
勘定書	6 綴
勘定書	2 綴
計算書	13 綴
出納補簿	1 綴
积亮永七回忌辰記録	1 綴
諸綴帳	1 綴
本願寺廿一世明如上人遺稿抄	1 綴
本山社長表彰委員会報告書	1 通
赤十字社感謝状	1 通
赤十字社感謝状	1 通
大阪市西区祝状	1 通
鉦山試掘認可願雛形	1 綴
桜ヶ丘住宅経営地案内	1 枚
日本生命保険株式会社御案内巡路図	1 枚
土地売渡証書	1 通
勘定書監査書	1 通
日記	1 綴
生命健康記箋	1 綴
西田永助肖像写真	1 枚
写真	63 枚
大阪市水道全図	1 舗
大新版旅行用畿内全図	1 舗
大阪市図	1 舗
実地踏測東京市街全図	1 舗

東京案内地図	1 舗
東京区分絵図	1 舗
京都府管内全図	1 舗
閻魔萬歳挿絵双六	1 枚
箕面有馬電車開業広告（大阪朝日新聞）	1 部
畝傍山東北御陵并ニ榎原神宮真景	1 枚
神武天皇御陵埋碑銘文石摺	1 枚
水間寺の由来	1 冊
玉日君御小伝	1 冊
日露戦役奉公余響	1 冊
道の杖	1 冊
1954 セリーグ・パリーグ出場選手メンバー表	1 枚
第 36 回全国高校野球選手権大会出場選手一覧表	2 部
大相撲春場所取組表・星取表	5 組
知恩院秘宝特別展図録	1 冊
ピヂヨン生徒作品シヨウパンフレット	1 冊
阪堺鉄道経歴史	1 冊
阪神急行電鉄二十五年史	1 冊
東海道線車窓展望	1 冊
聖光録	1 冊
聖徳記念絵画館壁面解説	1 冊
明治神宮外苑聖徳記念絵画館壁面はがき	2 組
絵葉書帳	1 冊
大阪市街図	1 舗
大阪市街図	1 舗
阪神沿道案内 魚崎町住吉村御影町新地図	1 舗
実地踏査神戸市新図	1 舗
神戸新地図	1 舗
大神戸市街地図	1 舗
観光京都市街図	1 舗
都心拡大東京全図	1 舗
最新東京地図	1 舗
最新版名古屋市街図	1 舗
徴収免除通知	1 通
検診表	1 通
徴兵検査丙種合格者及丁種不合格者に与ふる注意	1 枚
大阪外国語学校入学許可書	1 通
大阪外国語学校入学者心得	1 枚
大阪外国語学校授業料領収証	2 通
大阪外国語学校一覧附録	1 冊
大阪商科大学授業料領収証	9 通
大阪商科大学在学心得	1 冊
皇陵巡拝会案内状	45 通
皇陵巡拝道葉	1 冊
写真帳	1 冊
本山彦一表彰記念牌	1 点
支那事变記念章牌	2 点
紺綬褒章	1 点
軍人後援会有功会員徽章	1 点
御代の花	5 冊
載仁親王揮毫	1 枚
旌表	1 通
感謝状	1 通
赤十字社有功章記	1 通
軍人後援会銀杯授与記	1 通
軍人後援会特殊会員証	1 通
軍人後援会有功会員証	1 通
関東大震災救援費褒状	1 通
在郷軍人会名誉会員推薦状	1 通
四条畷神社記念事業感謝状	1 通
愛国婦人会有功章記	1 通
愛国婦人会有功章付加章記	1 通
愛国婦人会賛助員証	1 通
愛国婦人会感謝状	1 通
愛国婦人会感謝状	1 通
大阪府褒状	1 通
大阪府褒状	1 通
大阪朝日新聞	5 綴
阪神タイガース公式戦日程表	1 枚

阪神タイガースカレンダー	1 点	国防婦人会分会組長囑託状	1 通
◇貴嶋史江氏寄贈		国防婦人会分会組長囑託状	1 通
日本銀行兌換銀券 1 円	1 枚	国防婦人会感謝状	1 通
満州中央銀行券 100 円	1 枚	国防婦人会感謝状	1 通
◇北橋一晃氏寄贈		大日本婦人会組長委囑状	1 通
抜ききたがね	9 点	大日本婦人会理事委囑状	1 通
◇木村武志氏寄贈		婦人部会感謝状	1 通
大阪市立博物館完成記念品	1 点	家庭防空組合組合長委囑状	1 通
警察官徽章・帽章・腕章	4 点	母の会理事委囑状	1 通
大阪市警視庁物品保管箱	1 点	母の会幹事委囑状	1 通
和歌山県警警察官外套	1 着	推進学級役員任命証	1 通
大阪高島屋御案内	21 点	国防婦人会記章	1 点
大阪堂島米穀取引所仲買人バッジ	1 点	愛国婦人会記章	1 点
国民労務手帳（奥野政敏宛交付）	1 冊	◇三ツ矢守男氏寄贈	
市電停留所標示板	3 点	集英尋常小学校修業証書（増井スエ宛）	2 通
市電乗務員帽子	1 点	◇森上和明氏寄贈	
◇小山敏子氏寄贈		絵葉書	80 枚
小山家文書	263 点	◇吉井欣哉氏寄贈	
◇三枝濱子氏寄贈		市電廃止記念乗車券	15 枚
大阪大国技館竣工記念大場所入場口写真	1 葉	ゾーンバス運行開始記念乗車証	3 枚
大阪大国技館竣工記念大場所入場口写真	1 葉	◇吉川由利子氏寄贈	
大阪大国技館内売店写真	1 葉	吉川あさ関係資料	254 点
力士絵葉書	5 枚	●美術	
◇柴田将良氏寄贈		◇大路常次氏・武内文子氏寄贈	
『会館新築工事概要』（社団法人中央電気倶楽部）	1 冊	花鳥図屏風 松村景文筆	1 隻
衣料切符（柴田三恵子・同孝司・同君子分）	3 枚	月竹図屏風 吉村孝文筆	1 隻
都島中野連合子供会指導員腕章	1 点	柿に小禽図 久保田桃水筆	1 幅
◇竹森章氏寄贈		三社図 森関山筆	1 幅
朝日嶽留蔵優勝・大関昇進記念相撲番付兼口上（於 宍粟郡山崎学校角空地）	1 枚	大黒天図 菅其翠筆	1 幅
相撲番付（於阪神電車千船停留所横空地）	1 枚	西田亮永肖像 石川小陰筆	1 幅
朝日嶽留蔵写真（紋付き羽織姿）	1 葉	西田宣福肖像	1 面
千田川友次郎写真（化粧廻し姿）	1 葉	聚美画鑑	2 冊
朝日嶽留蔵引退披露記念 風呂敷	2 枚	聚美画鑑 後集	1 冊
大相撲パンフレット （勸進元松竹興行株式会社、於堂島大橋北詰）	1 冊	◇木村武志氏寄贈	
昭和十五年夏場所大相撲九日目パンフレット	1 冊	刀 銘 摂州大坂住新平明安造是	1 口
身体障害者福祉基金募集花相撲大会パンフレット	1 冊	刀 銘 昭和十九年十月吉日／大阪陸軍造兵廠 源貞重作	1 口
年賀葉書（綿貫次郎→村松茂）	1 通	◇小山敏子氏寄贈	
葉書（村松茂→竹森章）	1 通	印箋（九江先生印影）	31 点
書状（村松茂→竹森章）	1 通	印箋（鳥飛魚戯）	1 点
書状（村松茂→竹森章）	1 通	印箋（九江）	1 点
封筒（東京本所横網竹口某→村松百鬼庵）	1 点	印箋（心清夢亦安）	1 点
◇中村民夫氏寄贈		印箋（赤壁賦ほか）	3 点
市電回数券売場看板	1 点	印箋（種花調鶴ほか）	2 点
◇西澤英和氏寄贈		印箋（石顛摹古）	1 点
大阪城天守閣竣工記念文鎮	1 点	印箋（平印九江）	1 点
パナマ帽（高島屋販売）	1 点	印箋（泰平九江ほか）	11 点
カンカン帽	1 点	印箋（丸に二）	11 点
ソフト帽（こげ茶）	1 点	印箋（泉石依情）	1 点
ソフト帽（黒）	1 点	印箋（遷春）	1 点
市会議員候補者藤原龍吉推薦状	1 枚	印箋（楽只）	1 点
市会議員候補者古川嘉蔵立候補挨拶状	1 枚	十二月十四日付小山九江宛行徳玉江筆書簡	2 点
市会議員候補者森野熊一立候補挨拶状	1 枚	印箋（鳥倦飛而知還ほか）	1 点
マツタカ印文化水筒	1 点	印箋（百寿之章）	1 点
撰別おむすび形	1 点	印箋（玉樹風臨ほか）	17 点
◇羽場究氏寄贈		印箋（忙中閑ほか）	11 点
在郷軍人会分会員手牒	1 冊	印箋（泰平之印ほか）	9 点
隣組長委囑状	1 通	印箋（話茗ほか）	33 点
		十二月二十日付小山九江宛行徳玉江筆受取証	1 点
		印箋（聞唸ほか）	1 点
		印箋（款乃一声山水緑）	1 点
		十二月三十日付小山九江宛行徳玉江筆書簡	1 点

印箋 (汲古)	1 点	歌舞伎番付 歌舞伎座 昭和 36 年 6 月	1 冊
印箋 (小山ほか)	23 点	歌舞伎番付 南座 昭和 27 年 12 月	1 冊
臘脂絵具	1 点	歌舞伎番付 東横ホール 昭和 36 年 10 月	1 冊
板膠	1 点	松竹新喜劇番付 中座 昭和 25 年 2 月	1 冊
板膠	1 点	松竹新喜劇番付 中座 昭和 25 年 12 月	1 冊
臘脂絵具	1 点	松竹新喜劇番付 中座 昭和 26 年 2 月	1 冊
三千本膠	1 点	松竹新喜劇番付 大阪歌舞伎座 昭和 29 年 10 月	1 冊
胡粉	1 点	松竹新喜劇番付 新橋演舞場 昭和 36 年 7 月	1 冊
硯	1 点	新国劇番付 大阪歌舞伎座 昭和 26 年 12 月	1 冊
蓋付小皿	1 点	新国劇番付 歌舞伎座 昭和 26 年 5 月	1 冊
臨清人初斎画山水図十二葉	12 点	新派番付 明治座 昭和 35 年 7 月	1 冊
無落款忠臣蔵之図	6 点	新派番付 明治座 昭和 36 年 5 月	1 冊
春景山水図 小山九江筆	1 点	新派番付 明治座 昭和 36 年 9 月	1 冊
百鬼夜行図写し	1 点	新派番付 新橋演舞場 昭和 36 年 5 月	1 冊
諸家 短冊	20 点	大阪歌舞伎座グラフ 昭和 27 年 10 月	1 部
十六羅漢図粉本 田能村直入画小山九江模	2 点	五代目尾上菊五郎追善口上図 大阪歌舞伎座 昭和 27 年 4 月	1 枚
出石鶴山写真	1 点	宝塚歌舞伎脚本と配役 東宝南街会館 昭和 28 年 12 月	1 冊
梅花山水図粉本 田能村直入原画	1 点	新国民歌「われらに愛す」楽譜	1 部
山水図粉本 藍瑛原画	1 点	宝塚歌舞伎パンフレット 東宝南街会館 昭和 28 年 12 月	1 部
山水図粉本 田能村竹田ほか画小山九江模	4 点	宝塚歌舞伎パンフレット 北野劇場 昭和 29 年 3 月	1 部
山水図粉本 田能村竹田画小山九江模	1 点	宝塚歌劇パンフレット 宝塚大劇場 昭和 29 年 6 月	1 部
馬図粉本 田能村直入画小山九江模	1 点	バレエプログラム 産経会館 昭和 29 年 1 月	1 冊
月に小禽図 常子筆	1 点	第 16 回 TAMC 奇術大会プログラム 日比谷第一生命ホール 昭和 36 年 10 月	1 部
虎図 小山九江筆/虎図 小山九江筆/山水図 小山九江筆	3 点	声楽プログラム 寿声会 日本青年館ホール 昭和 36 年 6 月	1 部
諸家 絵并俳諧短冊	29 点	3 人のピアノ独奏会プログラム 朝日講堂 昭和 36 年 10 月	1 部
近代大阪画家見立番付粉本 写小虎先生画ヲ	1 点	ジョイントリサイタルプログラム 神戸欽松会ホール 昭和 27 年 1 月	1 部
群鶴図 小山九江筆	1 点	舞踊番組 御影町西町会館 昭和 29 年 4 月 25 日 若柳社中	1 枚
山水図 橋本青江筆	1 点	西崎緑創作舞踊発表会番組 毎日会館 昭和 25 年 4 月	1 枚
百鬼夜行図 小山九江筆写	1 点	祝鴨川おどり「山椒太夫」パンフレット 昭和 29 年 5 月	3 部
七福神 田能村小斎筆立雛 小山九江筆	2 点	都踊りパンフレット 南座 昭和 24 年 4 月	1 部
山水図 小山九江筆	1 点	都踊り番組 昭和 29 年 4 月	2 部
◇宮里圭子氏寄贈		都踊り番組 4 月	1 部
青海波蛤文夏帯	1 本	聖徳太子 1330 年記念芸術祭番組 昭和 26 年 4 月 朝日会館	1 部
竹文羽織	1 枚	長唄番組 電気倶楽部 昭和 10 年 11 月 16 日 長唄睦也会秋季公演	1 冊
梅竹文襦袢	1 枚	長唄番組 朝日会館 昭和 8 年 11 月 1 日	1 冊
羽織紐	4 本	長唄演奏会歌詞 北陽演舞場 昭和 9 年 4 月 8 日	1 冊
結納・婚礼関係書類	7 点	三世稀音家六四郎師作曲集 昭和 10 年 3 月	1 冊
●民俗		長唄番組 朝日会館 昭和 16 年 12 月 11 日 長唄研究会	1 部
◇株式会社つば善商店寄贈		長唄番組 吉扇会 昭和 25 年 4 月 15 日	1 部
燕屋焼 時代風俗人形	9 点	長唄番組 吉扇会 昭和 26 年 4 月 22 日 日芸会館	1 部
◇柴田宙依氏寄贈		長唄番組 如月会 昭和 29 年 5 月 1 日 中央電気倶楽部	3 部
宝船	95 枚	長唄番組 白百合会 昭和 24 年 12 月 3 日	1 部
紙製やもり	2 点	長唄番組 白百合会 昭和 25 年 8 月 3 日 美術倶楽部	1 部
紙製蛇	1 点	長唄番組 白百合会 昭和 29 年 1 月 16 日	1 部
◇増田勝之氏寄贈		長唄番組 稀調会 昭和 24 年 11 月 6 日	1 部
初どおし	1 点	長唄番組 稀調会 昭和 25 年 10 月 15 日	1 部
とおし	4 点	長唄番組 吟風会 昭和 23 年 11 月 21 日 堺卯楼	1 部
綿繰り	1 点	長唄番組 吟風会 昭和 24 年 5 月 1 日 堺卯楼	1 部
●芸能		長唄番組 吟風会 昭和 25 年 10 月 22 日 藤田東邸	1 部
◇大路常次・武内文子氏寄贈		長唄番組 吟風会 昭和 25 年 5 月 3 日 三越八階ホール	1 部
役者・芸妓写真帖	1 帖	長唄番組 昭和 26 年 11 月 21 日 花外楼	2 部
歌舞伎番付 中座 昭和 27 年 2 月	1 冊	長唄番組 昭和 27 年 12 月 17 日	1 部
歌舞伎番付 中座 昭和 28 年 4 月	1 冊	歌澤番組 新町演舞場 昭和 5 年 10 月 18・19 日	2 部
歌舞伎番付 大阪歌舞伎座 昭和 27 年 4 月	1 冊		
歌舞伎番付 大阪歌舞伎座 昭和 27 年 10 月	1 冊		
歌舞伎番付 大阪歌舞伎座 昭和 27 年 11 月	1 冊		
歌舞伎番付 大阪歌舞伎座 昭和 28 年 3 月	1 冊		
歌舞伎番付 大阪歌舞伎座 昭和 28 年 11 月	1 冊		
歌舞伎番付 南座 昭和 24 年 12 月	1 冊		
歌舞伎番付 南座 昭和 25 年 12 月	1 冊		
歌舞伎番付 南座 昭和 26 年 12 月	1 冊		
歌舞伎番付 歌舞伎座 昭和 26 年 4 月	1 冊		

歌澤番組 北新地演舞場 昭和17年6月15日	1部	櫓お七図 多色木版 斎藤清二郎画	1枚
新国劇パンフレット 昭和25年12月 大阪歌舞伎座	1部	三番叟カット原稿 斎藤清二郎筆	1枚
新国劇パンフレット 昭和27年7月 大阪歌舞伎座	1部	文楽・芸能関係スクラップ・原稿・ノート等	24点
新派パンフレット 昭和27年2月 大阪歌舞伎座	2部	中村利雄宛書簡・名刺等 昭和9～30年頃	36点
すわらじ劇園公演パンフレット 昭和29年6月	1部		
映画「聖衣」チラシ 昭和28年12月 南街劇場	1枚		
映画「静かなる男」チラシ 昭和28年3月 三宮・阪急 会館	1部	●建築	
大阪歌舞伎座観覧券 昭和25年12月	2枚	◇大路常次・武内文子氏寄贈	
南座老等観覧券 昭和26年12月	1枚	木製五重小塔（「伽藍復興御寄付記念／四天王寺」）	1点
宝塚大劇場座席券 昭和29年6月	3枚	百萬塔（四天王寺宝塔古材）	1点
大阪朝日会館座席券	1枚	五重宝塔落慶記念 四天王寺	1部
全国高等学校野球選手権大会指定席券 昭和26・27年	2枚		
	1枚	◇オリックス不動産株式会社寄贈	
日本貿易産業博覧会招待券 昭和25年	1枚	旧八木通商大阪本社テラコッタ	2点
松竹ミルクキャラメルちらし	1枚	旧八木通商大阪本社外装タイル（二丁掛）	1点
		旧八木通商大阪本社外装タイル（二丁掛・役物）	1点
◇株式会社つば善商店寄贈		旧八木通商大阪本社外装タイル（小口平）	1点
陶器祭造り物人形・大阪焼等ガラス乾板	105枚	旧八木通商大阪本社外装タイル（小口平・役物）	1点
		旧八木通商大阪本社内装タイル（小口平）	2点
◇手塚稔子氏寄贈		旧八木通商大阪本社デッキグラス	1点
大阪能楽殿図面 大正15年5月	1舗		
大阪能楽殿図面 大正5年4月起工	1枚	◇社団法人日本建築協会寄贈	
手塚亮太郎還暦祝賀会卷子 昭和3年	1巻	第2回日本建築祭記念講演会 録音テープ	2点
大阪能楽殿写真	2葉	対談「建築家安井武雄 自由様式の道」 録音テープ	1点
湊川神社能楽堂写真	3点		
湊川神社能楽堂図面	1枚	「70周年記念対談」 録音テープ	1点
能楽殿無償譲受申込書 七宮神社宮司→手塚家 昭和10 年7月	1通		
大正八年記事	1冊	◇西澤英和氏寄贈	
審査請求事由書 昭和13年9月 手塚貞蔵 西宮税務 署宛	1通	四天王寺中門落慶記念文鎮	1点
能面・能衣装目録	2綴		
建物売買届控 昭和15年 天王寺区长宛 手塚貞三	4綴	◇野口順子氏寄贈	
大阪能楽殿経営譲渡契約書 昭和13年2月	1通	旧開高邸玄関土間モザイクタイル	2点
不動産売渡証書	2綴	旧開高邸台所白色無地タイル（役物）	1点
動産借用契約書	1綴		
能楽殿売渡二附諸事控	1冊	◇森岡讓氏寄贈	
		大同生命本社ビル新築記念文鎮	1点
◇中村知也氏寄贈			
文楽ポスター 昭和15～46年	53枚		
人形浄瑠璃役割番付 昭和10～31年	78枚		
日本因会太夫三味線顔附 昭和15年度改正	1枚		
人形浄瑠璃因協会太夫三味線人形顔附 昭和28年11月改正	1枚		
人形浄瑠璃因協会太夫三味線人形顔附 昭和43年12月改正	2枚		
人気俳優花形番付 昭和13年5月	1枚		
大阪歌舞伎座六月興行出勤俳優紋帳	1枚		
人形浄瑠璃番付（冊子）昭和5～45年	184点		
文楽公演台本	4冊		
歌舞伎番付類（冊子）昭和7年～32年	42冊		
前進座番付（冊子）昭和15～37年	3冊		
新国劇番付（冊子）昭和14～31年	7冊		
新派等番付（冊子）昭和24～47年	14冊		
新劇等番付・台本	14冊		
歌劇番付 昭和29～30年頃	6冊		
能・舞踊番組 昭和27～38年	3冊		
喜劇番付（冊子）	29冊		
文楽・演劇・歌劇関係絵葉書	56点		
斎藤清二郎関係書籍	5冊		
芸能関係書籍・雑誌	104冊		
人形浄瑠璃チラシ・パンフレット	49点		
人形浄瑠璃関係展覧資料	7点		
四ツ橋文楽座開場記念配布物 昭和4年12月26日	1組		
道頓堀文楽座開場配布物 昭和30年12月28日	1組		
人形浄瑠璃襲名等摺物・挨拶状	15点		
人形浄瑠璃・歌舞伎襲名等末広	14点		
人形浄瑠璃・歌舞伎大入袋・祝儀袋	42枚		

新収館蔵資料紹介

朝鮮通信使関連資料 虎図屏風

勇壮な枝ぶりの松の下で戯れる親子の虎を描いた8枚の絵画が貼り込まれた屏風である。虎は朝鮮の象徴的動物であり、建国の神話においても重要な役割を与えられている。朝鮮において画像化された虎図の役割としては、災い除けや子孫繁栄の意味が込められているとされる。本図も親子の虎を画題としている点から、後者の意味合いを含む吉祥的な図様と考えられる。

人形浄瑠璃ポスター 四ツ橋文楽座 昭和16年2月 (文楽ポスター 53枚の内)

中村知也氏寄贈

松竹に勤務し、四ツ橋文楽座の企画宣伝部長をつとめた中村利雄氏の遺品。寄贈品には、昭和10年代の四ツ橋文楽座のポスターが23枚あり、ほとんどが画家で、文楽人形の研究者であった斎藤清二郎の作品を用いたものである。本品では「ひらかな盛衰記」逆櫓の段の一場面を描く。

抜きたがね 昭和戦後期

北橋一晃氏寄贈

大阪市生野区で抜きたがね製造を行う北橋製作所が、戦後製造した各種の抜きたがね。帽子・ベルト・玩具などの部品を抜くものである。同製作所は、抜きたがね製造に加え、プレス機を用いて型抜きする作業も行っていた。



人形浄瑠璃ポスター 四ツ橋文楽座



抜きたがね



朝鮮通信使関連資料 虎図屏風

資料のデータ整備・貸出し・特別観覧

館蔵資料のデータ整備

●マイクロフィルム撮影

本年度は下記の館蔵資料および寄託品について撮影を行った。

(1) マイクロフィルム撮影

- ・奥田家文書 19点 1,400コマ
- ・大阪歴史資料コレクション 67点 1,200コマ
- ・寄託品 114点 1,400コマ

(2) 写真撮影

- ・近世および近代の大阪の絵画資料 20点

館蔵資料の特別観覧

今年度の特別観覧の状況は以下のとおりである。
(重複含む)

掲載	146件	313点
閲覧	11件	31点
撮影	12件	55点
実測	1件	17点
複製	2件	3点
印画	0件	0点
放映	35件	58点
デジタルオンデマンド	4件	7点
その他	5件	5点
計	216件	489点

館蔵資料の貸出し

今年度に他機関へ貸出した資料数は下に掲げた表のとおりである(24件340点)。

図書の入受(平成24年3月31日現在)

今年は新たに5,751件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈2,878件、特別観覧献本99件、移管1,633件、購入1,015件、自主刊行物の登録126件であった。蔵書は当館2階の学習情報センター「なにわ歴史塾」において閲覧サービスを行っている。

館蔵資料の貸出し状況

申請者	点数	展覧会名称	貸出期間
大阪市立科学館	2	常設展示	平成23年4月1日～平成26年3月31日
大阪市立 住まいのミュージアム	10	企画展「なにわの遊楽―芝居・祭り・花暦―」	平成23年4月9日～同6月12日
泉佐野市教育委員会(歴史館いづみさの)	2	企画展「泉佐野サムライ列伝～日根野氏と和泉の中世武士たち～」	平成23年4月12日～同6月17日
大阪府立弥生文化博物館	2	平成23年度夏季特別展「豊饒をもたらす響き 銅鐸」	平成23年6月28日～同9月30日
財団法人 長浜曳山文化協会	9	特別展「歌舞伎から見るお江の時代」	平成23年7月16日～同9月4日
大阪人権博物館	4	第66回特別展「モダンガールズ 青鞥の時代」	平成23年8月23日～同11月20日
財団法人 柿衛文庫	3	秋季特別展「西鶴―上方が生んだことばの魔術師」	平成23年9月1日～同10月29日
福岡市博物館	13	特別企画展「日本とクジラ」	平成23年9月3日～同11月20日
鹿児島県歴史資料センター黎明館	30	企画特別展「大阪がやってきた!～古代から近代 鹿児島とのつながり～」	平成23年9月12日～同11月20日
大阪府立近つ飛鳥博物館	1	平成23年度秋季特別展「百舌鳥・古市の陸墓古墳―巨大前方後円墳の実像―」	平成23年9月12日～同12月16日
栃木県立博物館	187	平成23年度秋季企画展「土偶の世界―縄文人のこころ―」	平成23年9月13日～同11月20日
長崎県美術館	2	近代日本画「夢の競演」展	平成23年9月20日～同12月18日
和泉市久保惣記念美術館	12	特別展「装身具―日本・中国・朝鮮 よそおいの美―」	平成23年9月22日～同12月12日
高槻市教育委員会(高槻市立しるあと歴史館)	31	秋季特別展「徳川三代と華ひらく富田～まちに息づく文化の世界～」	平成23年9月24日～同12月11日
名古屋市秀吉清正記念館	1	特別陳列「三成と清正」	平成23年9月26日～同11月25日
和泉市教育委員会(和泉市いづみの国歴史館)	1	企画展 和泉市の歴史3 池田編出版記念「池田寺の歴史と開発」展	平成23年10月5日～同12月20日
吹田市立博物館	4	平成23年度吹田市無形民俗文化財指定記念展示「どんじ祭り」	平成23年10月8日～12月10日
和歌山市立博物館	5	特別展「祇園南海とその時代」	平成23年10月8日～同12月11日
神戸市立博物館	1	特別展「日本絵画のひみつ」	平成23年11月26日～平成24年2月5日
福岡市美術館	1	常設企画展「釜山の美術―朝鮮王朝時代の絵師と絵画活動―」	平成23年12月20日～平成24年2月23日
堺市博物館	9	企画展「開口神社と堺」	平成24年1月25日～同4月15日
東京都江戸東京博物館・読売新聞東京本社・株式会社NHKプロモーション	2	特別展「ザ・タワー―都市と塔のものがたり―」	平成24年2月7日～同5月20日
土浦市立博物館	3	企画展「土屋政直―土浦藩主の横顔」	平成24年3月3日～同5月20日
府中市美術館	5	「三都画家くらべ―京、大坂をみて江戸を知る」展	平成24年3月3日～同5月20日

教育普及事業

大阪歴史博物館 開館10周年記念事業

11月3日に開館10周年を迎えるにあたり、利用者に感謝の意を表するとともに、新しい博物館のあり方を模索した。前者については、常設展示の入館無料やプレゼントウィークなどを実施した。後者については、現代アートとのコラボレーションなど新規の取り組みを行った。

◇HAPPY 10th Anniversary 企画

もっとワクワク レキハク!!

11月3日・4日・5日 常設展示の無料開放 4,172名

10月15日～10月30日の土・日曜日 プレゼントウィーク 600名

10月15日～10月30日の土・日曜日と11月3日 れきはく市場（オリジナルグッズ販売）

10月26日～11月7日 10周年記念ポスター展

10月26日～11月21日 「京大坂図屏風」公開

10月26日～11月28日 “アニメの源流” 錦影絵の展示

◇ワクワクレキハク!! 常設展示パワーアップ企画

10月12日～11月28日 歴博×藤浩志 一忘れ去られたモノにやどるチカラ

10月15日～10月30日の土・日曜日 「聞き耳プロジェクト」ツアー 30名

11月3日 かえっこ in 歴博 ～歴博とかえっこのコラボレーション～ 300名

シンポジウム等

◇第11回なにわ歴史シンポジウム「上町台地未来遺産フェスタ 都市平野がつちかった人と文化」12月3日87名

◇人間文化研究機構 第16回公開講演会・シンポジウム「アジアから琉球弧を考えるー海洋をめぐる人・モノ、文化ー」9月23日245名

◇「山の寺」科研 総括シンポ「中世「山の寺」研究の最前線」12月17日91名・18日97名

◇シンポジウム「大阪上町台地から都市を考える3都市と自然の歴史学ー弥生時代から難波宮ー」10月15日120名

◇シンポジウム「大阪上町台地から都市を考える4港湾と中世都市ー堺・益田・高松・大阪ー」12月23日130名

◇難波宮大極殿発見50周年記念シンポジウム「難波宮百花斉放」2月25日724名

◇財団法人大阪市博物館協会・公立大学法人大阪市立大学包括連携協定締結記念、大阪城天守閣復興80周年・大阪歴史博物館開館10周年記念シンポジウム「秀吉の大坂城と城下町ー首都大坂の時代ー」11月27日371名

講座・見学会

●なにわ歴博講座

◇初夏のシリーズ なにわの考古学 ささまざまな視点による過去の復元

6月3日「渡来人の故郷を求めて」寺井誠 119名

6月10日「日中古代都城の街並み形成試論」積山洋 91名

6月17日「豊臣期大坂城下の武家屋敷・再論」豆谷浩之 122名

6月24日「『楼閣風建物』は果たして『楼閣』か?」

前期難波宮東方で見つかった一郭の復元的検討ー」李陽浩 94名

◇夏のシリーズ 近代の大阪 都市のかたち・文化

8月12日「描かれた校舎 戦前期の大阪市立小学校を例に」酒井一光 57名

8月19日「100年前に警察がつくった夜学校とその子どもたち」飯田直樹 48名

8月26日「明治後期における大阪の「塔」」船越幹央 74名

9月2日「大正・昭和の郷土趣味と大阪」伊藤廣之 32名

◇冬のシリーズ（その1）博物館のさまざまな研究

1月13日「瀬戸内塩飽（しあく）諸島と大坂町奉行所」八木滋 81名

1月20日「錦影絵についてー大阪歴史博物館蔵品を中心にー」澤井浩一 48名

1月27日「大阪歴史博物館所蔵古代・中世瓦の採集地をめぐって」加藤俊吾 63名

2月3日「徳川大坂城普請後に残された石垣石についてー“城下町”大坂の一断面ー」大澤研一 95名

◇冬のシリーズ（その2）博物館のさまざまな研究

2月17日「李王家博物館から柳宗悦の民芸運動へー李王家博物館に学んだ人々ー」伊藤純 69名

2月24日「中・近世における水産物の消費地・供給地としての堺ー堺環濠都市遺跡出土の魚貝類資料を中心にー」池田研 70名

3月2日「歴史研究における広開土王碑の持つ意義について」文珠省三 102名

●金曜歴史講座（財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所と共催）

◇シリーズ1

7月8日「前期難波宮跡の年代と宮号を求めて」中尾芳治氏（元帝塚山学院大学教授）189名

7月15日「難波宮大極殿の発見ー調査に果たした建築史学者の目ー」植木久氏（大阪市教育委員会研究主幹）157名

7月22日「後期難波宮大極殿の重圏文系瓦について」八木久栄氏（元大阪市文化財協会企画課長）138名

7月29日「大極殿の発見と保存の問題ー高度経済成長期における都市再開発のはざまでー」長山雅一 138名

◇シリーズ2

10月7日「陶技の粹ー佐賀藩蔵屋敷跡出土の「鍋島」ー」市川創 87名

10月14日「おおさかの中心を掘るー難波宮・本願寺・大坂城」大庭重信 93名

10月21日「もう一つの埋れた港ー猪甘津と百済郡から古代の難波を語るー」京嶋寛 143名

10月28日「考古学からみた「難波（なにわ）のミヤケ」」南秀雄 128名

◇シリーズ3

12月2日「日本近世城郭の美、倭城に始まる!ー“扇の勾配”の誕生ー」黒田慶一 122名

12月9日「瓦からみた難波と飛鳥の古代寺院」谷崎仁美 103名

12月16日「韓国考古学の最近事情ー金海 大成洞古

- 墳群の検討―田中清美 122名
12月23日「上町台地とその周辺の地震と地すべりの跡」趙哲済 135名
- 同志社女子大学講座 メディア都市・大阪の今昔(いまむかし) 2月4日 224名
- 講演1「在阪メディアのゆくえ～放送を中心に」影山貴彦氏(同志社女子大学教授)
- 講演2「近代大阪の新聞人と文化」船越幹央 博物館 案内ツアー「博物館学芸員による展示案内」
- 第27回 歴史学入門講座 7月2日 111名
「中世後期社会を考える」久留島典子氏(東京大学史料編纂所教授/日本中世史)
- 連続講座 豊臣秀吉・桃山時代をめぐる諸問題―さまざまな分野の研究の紹介―
- 3月3日「桃山時代の服飾〈花〉モチーフの繚乱」中野朋子 74名
- 3月10日「豊臣秀吉と伊勢の遷宮」伊藤純 69名
- 3月17日「太閤検地と刀狩り」八木滋 65名
- 3月24日「桃山時代の絵画と肖像」岩佐伸一 68名
- 3月31日「豊臣大坂城の発掘調査成果について」豆谷浩之 66名
- 映画鑑賞会・講座等
- ◇映画講座「撮影監督から見る森一生監督の世界」
6月4日 38名 講師:森田富士郎氏(撮影監督)、上倉庸敬氏(大阪大学教授)
- ◇大阪アジア映画祭・特別連続ゼミナール
9月4日 35名、9月25日 32名、12月18日 34名、2月5日 37名 講師:暉峻創三氏(映画評論家)
- ◇2011 優秀映画鑑賞会「女優・高峰秀子特集と戦後映画傑作選」10月8日 234名・9日 122名 講師:上倉庸敬氏(大阪大学教授)
- ◇日本映画連続講座 2011
9月24日「名作映画から学ぶ裁判員制度」坂和章平氏(弁護士、映画評論家) 15名、10月30日「大阪の映画を語る!」武部好伸氏(映画評論家) 16名、11月20日「おおさかシネマフェスティバルはここから始まった!～『暗くなるまで待てない!』特別上映」講師:大森一樹氏(映画監督)、司会:高橋聰氏(映画評論家) 15名
- ◇第7回大阪アジア映画祭
特別フォーラム1「関西発の映画とスクリーンツーリズム」3月16日 40名、特別フォーラム2「映画館のデジタル設備導入に関して―VPPによる導入の可能性とデジタルの今後について―」3月15日 23名
- ◇浪花の映画事始め 7月9日 278名
『大阪百景』上映(解説:船越幹央)、講演「『僕らの弟』と大阪の映画」太田米男氏(大阪芸術大学教授)、『僕らの弟』上映(弁士:井上陽一氏)
- ◇第7回大阪アジア映画祭
おおさかシネマフェスティバル 2012 3月4日 237名
ベストテン発表&表彰式&受賞記念上映
- 見学会
- ◇古代の石組み水路 特別公開
5月4日 110名・7月28日 66名・10月29日 51名・30日 63名
- ◇見学会「昔の観光地を旅する 2011 一京の秋、伏見・宇治を訪ねて」船越幹央・伊藤純
11月13日 伏見稲荷大社と深草 24名、11月19日 宇治 20名
- ◇考古学入門講座《なにわ考古学散歩》「大阪の大道と街道を歩く」寺井誠・豆谷浩之・李陽浩・京嶋寛

- 4月9日「難波大道―今はなき古代難波の幹線道路を歩く」28名、4月16日「熊野街道と浜の道～中・近世の遺跡をめぐる～」26名、4月23日「熊野街道・紀州街道―悠久の歴史街道と遺跡」26名、4月30日「京街道―秀吉が造った道を歩く」26名
- ◇「大坂ぐるり町あるき―名所案内を歩く―」八木滋・伊藤純
5月22日「上町台地を歩く」49名、6月5日「天満・堂島を歩く」50名、6月12日「船場・島之内を歩く」50名、6月19日「西船場・堀江を歩く」49名

特別展・特集展示・講演会・展示解説など

- 特別展関連
- ◇特別展「幕末・明治の超絶技巧 世界を驚嘆させた金工芸 ―清水三年坂美術館コレクションを中心に」
3月2日～5月29日 写真パネル展
4月24日 15名・5月5日 16名
親子ワークショップ「海老の自在置物を作ろう」
5月8日 62名 記念シンポジウム「近代工芸と“地方”をめぐる諸問題」講師:村田理如氏(清水三年坂美術館館長) 山崎剛氏(金沢美術工芸大学准教授) 佐藤寛介氏(岡山県立博物館主任学芸員) 中野朋子・内藤直子
展示解説 5月22日 70名
- ◇特別展「民都大阪の建築力」
5月30日～9月25日 写真パネル展
展示解説 7月23日 25名、8月7日 30名・13日 20名・21日 25名・27日 35名、9月4日 30名・18日 30名・23日 45名
7月23日 通天閣ロボがやってくる! 握手会&撮影会 150名
7月27日～9月25日 小学生向けワークシート「博物館で動物みつけた」200名・塗り絵 2,000名
8月5日 近代建築「大阪城天守閣」見学会解説:宮本裕次氏(大阪城天守閣主任学芸員) 酒井一光 20名
8月6日 講演会「世界の中の20世紀大阪の建築」講師:五十嵐太郎氏(東北大学大学院教授、建築史・建築評論) 183名
8月20日 鑑賞講座「ステインドグラスのみかた・楽しみ方」講師:羽瀨恭夫号紅洲氏(ベニス工房主宰) 135名
8月28日～9月25日の土曜・日曜・祝日(土・日・祝日限定) オリジナル絵葉書プレゼント! 2,200名
9月10日・24日 特別展を楽しむための連続講座「オール・デコ 民都大阪の建築デザイン」講師:酒井一光 130名、「大阪城天守閣復興と学区制度廃止」講師:飯田直樹 32名
9月11日 旧第四師団司令部庁舎(もと大阪市立博物館) 特別公開解説:酒井一光・飯田直樹 90名
9月17日 トークとミニ・コンサート「建築物ウクレレ化保存計画」出演:伊達伸明氏(美術家) + チチ松村氏(GONTITI / ミュージシャン) 228名
- ◇特別展「心齋橋 きもの モダン―煌めきの大大阪時代―」
10月12日～12月4日 写真パネル展
10月29日 講演会と音楽会「書物と音楽・大阪モダニズム」 「書物の中に“大大阪”を封印する―モダニズム心齋橋再発見の試み―」講師:橋爪節也氏(大阪大学総合学術博物館/大学院文学研究科教授)「モダン大阪音楽会～第1章～」出演:そう楽舎 86名
11月3日 講演会「モダニズムを生きる女性たち」「心



2011年4月16日 考古学散歩

齋橋今昔 講師：肥田皓三氏（元関西大学教授）「阪神間の女性気質」 講師：明尾圭造氏（大阪商業大学商業史博物館主席学芸員） 92名

11月12日 講演会「近代大阪画壇の作品にみる服飾表現」 講師：小川知子（大阪市立近代美術館建設準備室主任学芸員） 32名

11月25日 「モダン大阪音楽會～第2章～」 出演：宇高竜成氏（謡） 124名
 そう楽舎：赤坂放笛氏（バロックオーボエ）、森本英希氏（バロックフルート、リコーダー）、吉竹百合子氏（チェンバロ）

◇特別展「柳宗悦展—暮らしへの眼差し—」

12月5日～2月29日 写真パネル展

1月29日 記念講演会「柳宗悦 河井寛次郎 濱田庄司が歩いた道 韓国をふたたび歩く」 講師：藤本巧氏（写真家） 341名

2月12日 音楽会「大正ロマンの歌声—夫の民芸運動を支えた声楽家柳兼子に想いをよせて—」 157名
 出演：おむすび音楽団 代表 藤田沙織氏（大阪音楽大学卒業） 他5名

展示解説 1月7日49名・28日94名、2月18日35名

◇特別展「日欧のサムライたち—オーストリアと日本の武器武器展—」

3月24日 オープニングコンサート「甲冑たちはこの音を聞いていた ～当時の「心」との出会い 戦場で人々の心を慰めたものは…～」 出演：森本英希氏（フルート）、高本一郎氏（リュート）、高見さなえ氏（ソプラノ） 企画協力：日本テレマン協会 90名

●特集展示関連

◇特集展示「上方舞・山村流」

山村流舞の会 4月9日107名・23日137名、5月21日278名

展示解説 4月10日8名、5月8日10名

◇特集展示「懐かしい市電とバスのある風景」

大阪の地下鉄も走る！鉄道模型ジオラマ大会 協力：たかきや鉄道クラブ 6月25日474名・26日449名

展示解説 5月28日46名、6月25日84名

◇特集展示「新発見！なにわの考古学2011」

展示解説 7月24日15名・31日20名、8月14日25名・28日23名

『大阪の歴史を掘る2011』講演会 8月14日160名

「平成22年度 大阪市内の発掘調査」 宮本康治氏（大阪市教育委員会事務局 主任学芸員）、「須恵器生産のはじまりと日本列島の国家形成 —大阪の遺跡を中心

に—」 菱田哲郎氏（京都市立大学文学部教授）

◇特集展示「古文書からみる大坂の町」

展示解説 10月8日15名・15日20名・23日10名・30日25名、11月5日15名・13日20名・26日15名、12月4日15名

◇特集展示「撰河泉の古瓦—採集資料からみた古代・中世の寺院—」

展示解説 12月17日16名・18日12名、1月21日18名
 1月27日 なにわ歴博講座（冬の講座その1「博物館のさまざまな研究」第3回目）「大阪歴史博物館所蔵古代・中世瓦の採集地をめぐって」 講師：加藤俊吾 63名

●展示解説

特別展に伴う展示解説 参加者合計 488名

特集展示に伴う展示解説 参加者合計 412名

常設展示に伴う展示解説 参加者合計 1,626名

“なにわ歴博” わくわく子ども教室事業

本事業は主に小学生・中学生を対象とし、土日祝日を中心に実施した。

①和同開珎の拓本でしおりをつくろう 4月～9月の毎月第1土曜日 午後2時～4時 全5回 計155名

②土人形マグネット作り 10月～3月の毎月第1土曜日（1月は第3土曜日）全6回 計178名

③綿くり・糸つむぎ体験 7月23日151名 8月27日222名

④凧づくりと凧あげ 1月7日 21名

⑤歴史講座と体験発掘（小中学生）9月11日、10月22日、11月12日 103名

⑥手作りおもちゃで遊ぼう 第1・3土曜日（1月は第3のみ）全23回 1,761名

その他

◇難波宮発掘調査の現地公開の開催

12月24日 150名

難波宮遺跡探訪

当館の地下に保存されている難波宮の遺跡を、1日6回、定員40人で、学芸員・ボランティアによるガイドツアーを実施している。平成23年度は合計8,352人の参加があった。また、12時30分～13時の間に5世紀の復元倉庫を公開しており、合計5,697人が見学した。

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館2階の無料空間内にある。映像ソフト約100件の閲覧、開架図書約6,000冊の閲覧、常駐する学芸員により学習相談に随時応じた。また、検索端末を利用した館蔵図書・館内展示情報検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーを用意し、市民の歴史学習を支援した。本年度、新たに利用案内リーフレットの作成、掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室図書コーナーの新規設置など、サービスの充実を図った。平成23年度の入室者数は31,606名、書庫出納件数は152件、複写利用件数は786件であった。

職員派遣

国内については52件の職員の派遣を行った。概要は34・35頁の「派遣依頼対応」を参照されたい。

学校連携事業

学校教育との連携をはかるため、学校教員を対象とする研修会へ学芸員を派遣するとともに、学校における進路学習のための職場体験学習を受け入れた。また、市内小学生を対象とした体験発掘の実施、大学からの博物館実習の受け入れをおこなった。詳細は以下のとおりである。

●学校職員の研修の受入

◇大阪市教員研修（主催：大阪市教育センター）

対象：大阪市立学校園教職員 延べ71名

①7月27日 古代フロアの見どころ

考古学の基本について

②8月3日 中・近世フロアの見どころ

天下の台所大坂

③8月10日 近代フロアの見どころ

近代の人々の暮らし

◇大阪市教師養成講座（主催：大阪市教育センター）

2月4日 22名（対象：大阪市小・中学校教員志望者）

◇大阪府教員初任者研修【社会体験研修】（主催：大阪府教育センター）8月12・15日 4名

●学校団体（小中学校及び高等学校）への教育支援および職業体験の受け入れ

5月18日	筑波大附属駒場高校2年生	7名	大坂の交通史について
5月27日	川西市立東谷中学2年生	40名	職業インタビュー
6月15日	愛知県豊田市猿投中学3年生	4名	職業インタビュー
7月8日	大阪市立天満中学2年生	25名	職業講話に先立つ見学
6月16日	大阪市立天満中学2年生	25名	職業講話
11月10日	大阪市立東中学2年生	2名	職業体験
11月11日	大阪市立東中学2年生	2名	職業体験
11月17日	大阪市立咲くやこの花中学3年生	3名	職業体験
11月18日	大阪市立咲くやこの花中学3年生	3名	職業体験
2月2日	大阪市立真住中学2年生	2名	職業体験
2月3日	大阪市立真住中学2年生	2名	職業体験

●体験発掘

市内の埋蔵文化財の普及・啓発活動のため、大阪文化財研究所との連携のもと、難波宮跡において体験発掘を実施した。実施に当たっては小学校高学年



体験発掘の様子

を対象とし、希望する学校の調整には大阪市小学校社会科研究会の協力をいただいた。今年度は、平成23年11月8日～11日、14日の期間中、市内7校（9校の予定であったが2校は雨天で中止となった）、537名の児童たちを受け入れた。

●博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習を、12大学65名を対象に受け入れた。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受益者負担の考え方から、実習に要する費用として1人あたり5000円を徴収した。

◇8月22日～26日（23日を除く）大阪市立大学18名、同志社2名、立命館1名

◇8月29日～9月2日（30日を除く）大阪市立大学8名、関西学院大学2名、京都橋大学1名、甲南女子大学1名、佛教大学3名、奈良大学4名、大谷大学1名、桃山学院大学1名

◇9月5日～9日（6日を除く）国立大学法人大阪大学20名、帝塚山学院大学2名

その他、見学実習として、帝塚山学院大学、阪南大学、同志社大学、龍谷大学、桃山学院大、大阪樟蔭女子大学、大阪市立大学、立命館大学、聖トマス大学から計380名を受け入れた。

地域・その他連携事業

博物館群との連携事業

大阪市ゆとりとみどり振興局の8箇所の博物館施設が連携し、大阪市の博物館の魅力をアピールするための事業を実施している（8on エイトオンでキャラクター展開）。5年目となる本年は、前年に続いて大阪市博物館協会事業企画課による事業推進体制をとり、当館もそれに参加した。

●ミュージアムウィークス 2011

期間：10月15日～11月23日

「めぐって、さがして8・8・ハチ」をテーマに、各施設が選りすぐった資料を展示。当館では、開場88周年を迎えた大阪松竹座関連の資料として、戦前のパンフレットやチケットなどを7階近代フロアにて期間中に展示した。また、印刷物としては8on (The Osaka 8 Museum's Network) のキャラクターを用いたポスターやリーフレットを作成し、設置・配布したほか、小冊子『8on GUIDE 2011』を配布した。

●ミュージアム連続講座

連携する館園から講師を招き、夜間の市民向け講座として開催されているシリーズ。

平成23年度は、前・中・後期の各日程で個別テーマを設定して合計9回開催された。当館からは、前期（テーマは「大阪から見た災害—過去に学び未来に備える—」）の3回目（9月16日）に、八木滋学芸員が「江戸時代大阪を襲った地震と津波」というテーマで講演をおこなった。

●文部科学省の補助金事業

『平成23年度「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究』に申請した課題『都市における「食」と生産地の「生物多様性」の2つの課題をむすびつける教育実践研究』が採択されたため、自然史博物館を中心として連携事業を展開した。当館からは、「江戸時代の大阪の青物流通」（1月6日：八木滋）と「淀川河口の川魚と漁撈」（2月10日：伊藤廣之）と題して、それぞれ講演を行った。なお、講演当日の様子がインターネットにおいて動画ストーリーミング中継された。

●文化連携事業（当館開催分）

- ・モダン大阪音楽會～第2章～ 11月25日 124名
詳細は21頁参照
- ・聴いてみよう雅楽、見てみよう雅楽、知ろうよ雅楽 11月27日 179名 演奏：博雅会 演目：《舞入音声》鳥急（双調）《管弦》双調調子、賀殿破・急、陵王《歌謡》催馬楽 席田《舞楽》右舞 白濱《退出音声》長慶子三度拍子
- ・なにわ歴博寄席 2011—道頓堀四百年物語—

2月26日 233名 創作落語：「相合傘」林家そめすけ氏、古典落語：「足上がり」桂米左氏、ミニ講座：「道頓堀四百年ものがたり」八木滋、創作落語：「美しき青き道頓堀川」（作・桂三枝）桂三風氏

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館協会の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入し、大阪市立大学、大阪大学の学生・教員が常設展示室にキャッシュレスで入館可となった。今年度の年間利用者は大阪市立大学が381名、大阪大学が274名。

●大阪市立大学との包括連携協定

大阪市博物館協会が大阪市立大学と包括連携協定を締結したことにもない、全体の連携事業へ参加するとともに、館独自の連携事業も実施した。

◇第40回市民講座への講師派遣

10月28日「「大大阪」モダン・ガール風俗考」中野朋子

◇古文書講座 史料から読む近世大阪

主催：大阪歴史博物館、大阪市立大学文学部 日本史学教室、10月29日「近世都市大阪の成立」八木滋 57名、11月12日「町の空間（家屋敷）」塚田孝氏（大阪市立大学文学研究科教授）57名、11月19日「町の空間と運営（家請人）」塚田孝氏 52名、11月26日「町の運営と町役人」八木滋 49名、12月3日「明治維新期の布令」佐賀朝氏（大阪市立大学文学研究科准教授）50名

◇研究プロジェクトへの派遣

大阪市立大学都市問題研究「近世都市大阪の歴史構想と史料テキストの開発」八木滋

その他の連携事業

●共催展示

大阪市内の文化財所有者と連携し、文化財の公開・活用を促進する事業の一環として、例年通り大念佛寺宝物館（平野区）との共催で「平野と大念佛展」を開催した。5月1日～5日 入場者4,034名

●大阪の歴史に学ぶエコライフ

大阪市環境事業協会との共催で、当館学芸員の講演を含め2回開催した。6月25日 講師：花田真理子氏（大阪産業大学教授）・池田研 54名、12月10日 講師：花田真理子氏（大阪産業大学教授）・杉本厚典 40名

●難波宮フェスタ！2011

難波宮の発見者である山根徳太郎の命日にちなみ、毎年7月28日を「なにわの日」として顕彰するもので、NPO法人 OSAKA ゆめネットと共催で実施した。

7月28日 イベント参加者 2,106名

主催：NPO（非営利活動団体）OSAKA ゆめネット／共催：大阪歴史博物館、財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所、財団法人大阪市コミュニティ協会、同中央区支部協議会、大阪ひと・まち魅力発見事業推進会議／協力：NPO法人いちょうコンソシアム、NPO法人田舎ごっこ倶楽部（音太小屋）、NPO法人大阪府高齢者大学校、A-yan! 関西をアートで盛り上げるNPO、NPO法人ひこうせん、大阪市高齢者リーダー協議会伝承会、スロークルーズ、たまこげクラブ、ドキドキ考古学、難波宮と大阪・熊野街道連絡協議会、ネクストステージ大阪LLP、音夢ネットワーク、ヤジ馬ヤジ北（北区ガイドボランティア）

講演会講演「歴史の荒波をかいくぐって生き残った難波宮の遺跡」豆谷浩之「前期難波宮をめぐる新発見—最近の難波宮東方の谷の調査から—」大庭重信93名、NHK 地下石組み遺構特別公開66名、その他<会場内見学／絵巻ワークショップ>A-yan!! のんち先生の大阪歴史絵巻ステージワークショップ25名

●上町台地歴史講座

上町台地を活動の場とするNPO法人まち・すまいづくりとの連携・共催事業として、上町台地の歴史・文化に対する関心を喚起する上町台地歴史講座を開催した。また、バロック音楽を当時の楽器で楽しむ「うえまちコンサート」を“大大阪時代を魅了した響きを博物館で”と題して実施した。

◇うえまちコンサート(第14回 開館10周年記念)

・共催：日本テレマン協会、トーク参加：船越幹央 7月17日 222名

◇上町台地歴史講座(第15回)

・出雲大社と古代の神々を訪ねる バスツアー 10月29日・30日、講師：李陽浩、大澤研一 40名

●関西ミュージックカンファレンス2011

特定の業界に所属していない世界の音楽アーティストが集まる見本市。関西ミュージックカンファレンス(KMC)実行委員会と共催で、ステージ、プレゼンテーション、ワークショップ、英語落語などを実施した。9月18日 1,174名、19日 1,418名

●平成23年度文化庁 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム活性化支援事業）

・事業名：地域の博物館や文化資源を活用した「上町台地」の魅力発信による観光振興・地域活性化事業

・事業主体：なにわ活性化実行委員会（大阪歴史博物館・財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所ほか）

・事業（当館が関係するもの）

- ①「AR 難波宮」の制作 拡張現実 (AR/Augmented Reality) の技術により、多機能携帯端末 (スマートフォン・タブレット PC 等) を利用したアプリケーションを開発した。
- ②ポータルサイト「なにわ まナビ ガイド」のたちあげ。URL <http://www.nmguid.jp/>
- ③上町台地周遊マップの制作
- ④難波宮フェスタ! の開催 (前掲)
- ⑤シンポジウム「難波宮百花斉放」の開催 (前掲)

平成23年度 普及関連事業の回数(日数)と参加人数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	開館10周年記念事業	4	5,102
	シンポジウム	7	1,865
	講座・見学会その他	63	5,341
	特別展・特集展示、講演会・展示解説	55	4,488
	なにわ歴博 わくわく子ども教室事業	40	2,591
	難波宮遺跡探訪	1,818	8,352
	小計	1,987	27,739
学校連携事業	学校職員研修の受け入れ	6	97
	職場体験学習	11	115
	体験発掘	7	537
	博物館実習の受け入れ	12	64
	博物館見学研修の受け入れ	9	380
	小計	45	1,193
地域・その他連携事業	博物館群との連携事業	6	536
	大学との連携	6	920
	その他連携事業	8	9,272
	小計	20	10,728
友の会関連事業	「大阪の町人文化」講演会(総会)	1	18
	町人文化を歩く	1	44
	史跡をめぐる	3	147
	資料館を歩く	1	50
	街道を歩く	3	146
	講座	3	18
	小計	12	423
ボランティア関連事業	研修	10	343
合計		2,074	40,426

友の会関連事業

本会は博物館の活動を支援し、博物館の充実及び発展に寄与するとともに、会員相互の親睦を深めることを目的（規約第2条）に活動を続けている。運営は自主運営をめざし、毎月開催の幹事会での議論を経ておこなわれている。

平成23年度会員数は341名（家族会員を含む）であった。会員数においてはこの数年大きな増減はみられない。かつ行事参加者も平均50名前後で推移しており、固定化が伺える。

■ H23 年度会員登録実績

	新規	継続	小計
個人会員	59	242	300
家族会員	13	24	37
学生会員	3	0	3
賛助会員	1	0	1
計	76	266	341

平成23年度は事務局体制の改変ならびに友の会の在り方の検討に着手した。これに伴って、見学会の漸減、特別会計（見学会等の実施に伴う収支）の分立、幹事会による特別会計管理などを実施した。

活動内容は下記の通りであった。

《活動内容》

●総会

5月29日 友の会総会・講演会 18人
講師：脇田修「大阪の町人文化」



東寺にて（『西国街道を歩く』その11）

●見学会

①町人文化を歩くシリーズ

7月14日 船場商家と神農さん、44人

講師：小西哲夫氏（コニシ株）ほか

②史跡をめぐるシリーズ

5月2日 花外楼と新内語り、55人

新内語り実演：重森三果氏、講師：澤井研一

10月3日 河内ワインワイナリーと東高野街道周辺をめぐる、49名

講師：（株）河内ワインワイナリー、羽曳野市史遊会

3月25日 古市古墳群と周辺資料館の見学、43名

講師：文珠省三

③資料館を歩くシリーズ

6月2日 天理参考館と周辺展示施設、50名

講師：天理大学附属天理参考館 学芸員 乾誠二氏 ほか

④街道を歩くシリーズ

10月24日 熊野街道を歩く その3、53人

講師：積山洋

1月8日 西国街道を歩く その10、49人

講師：大澤研一

3月3日 西国街道を歩く その11、44人

講師：大澤研一

●講座

なにわ歴史講座①特別展「民都大阪の建築力」見所と解説、9人 講師：酒井一光

なにわ歴史講座②特集展示「なにわの考古学2011」見所と解説、講師：池田研

なにわ歴史講座③特別展「心齋橋きものモダン」関連講座 9人 講師：中野朋子

●会誌の発行

『歴友』vol.19・20:8月1日刊行、『歴友』vol.21（大阪歴史博物館開館10周年記念号）:12月1日刊行

●事務局だよりの発行

5月1日、6月9日、7月25日、9月10日、11月25日、2月10日 計6回

●幹事会の実施

4月15日、5月9日、5月29日、6月10日、7月4日、9月2日、9月27日、10月19日、11月21日、2月10日、3月8日 計11回

ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとしてボランティアを導入している。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。

平成23年度におけるボランティアの登録者数は206名。活動日は休館日を除く毎日、日数は304日間、参加者は延べ6,721人であった。

●各グループの活動

◇遺跡探訪・歴史を掘る班（活動者84名 延べ活動人数2,907名）

前期難波宮跡の管理棟遺構や倉庫跡などのガイドツアーにおいて解説・誘導を行った。また、常設展示8階歴史を掘るコーナーにて再現された遺跡を使って、発掘調査や遺構・遺物の見方などが体験的に学ぶことのできるコーナーにおいて学習プログラムの案内や説明を行った。そのほか、5月4日と10月29・30日の石組溝一般公開に当たっては延べ16名が、11月3日の開館10周年関連イベントには9名が協力した。

◇スタンプラリー・ハンズオン班（活動者122名 延べ活動人数3,814名）

当館では10階・9階・7階の各展示場において、大阪の歴史に関するクイズを解きながら展示室を見学する子ども向けスタンプラリーを実施している。本班ボランティアは、当該スタンプラリーに参加する来館者へクイズの解説などの案内を行った。また常設展示場内での体験型事業（ハンズオン）を来館者向けに実施しており、その運営および説明と来館者への補助を行った。体験型事業（ハンズオン）は以下の6種類のほか、本年度開催した「「浪花百景貝合わせ」で遊ぼう！」（2月12日・3月11日）など時宜に応じた種目を織り交ぜている。そのほか、11月3日の開館10周年関連イベントには延べ34名が協力した。

10階：大宮人になってみよう！（奈良時代の官人の服を着る体験）／大極殿の土台をつくってみよう！（大極殿基壇を組み立てる立体パズル）

9階：両替商になってみよう！（江戸時代の両

替商を体験）／文楽人形をつかってみよう！（文楽人形の操り体験）

7階：大阪名所双六をやってみよう！（明治時代の双六で遊ぶ）／きものを着てみよう！（昔の着物を着る体験）

●研修

ボランティア活動の充実と来館者へのサービス向上を目的として研修を実施した。特に記載のないものは両班共通、〔 〕内は参加者数を示す。

平成23年度研修記録

5月7日 和同開珎の拓本でしおりをつくろう〔13名〕（遺跡・歴史班）

8月2日・21日 特別展「民都大阪の建築力」研修〔67名・55名〕

10月1日 土人形マグネットをつくってみよう〔7名〕（遺跡・歴史班）

11月8日 発掘調査に関する研修〔72名〕

11月27日・12月6日 館外研修「和歌山県立紀伊風土記の丘見学」〔41名・70名〕

1月22日 「「浪花百景貝合わせ」で遊ぼう！」〔17名〕（スタンプ・ハンズ班）

3月25日・27日 館外研修「大阪日本民芸館見学」〔21名・50名〕

●ボランティア懇談会

ボランティアと博物館側の意志疎通を円滑にし、よりよいボランティア活動を推進していく目的で、3月25・27日にボランティア懇談会を開催した。

●ボランティア活動の見学・視察

当館のボランティア活動について、下記の団体から見学・視察があった。

9月29日 徳島城博物館ボランティア友の会



和歌山県立風土記の丘研修風景

広報宣伝活動

館活動を広くPRし、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展関係が322件、特集展示関係が125件、館全体に関する内容・その他が135件であった。

●印刷物の発行

昨年度に引き続き、年間展示予定表(1回)・なにわ歴博カレンダー(38～41号)を発行するとともに、今年度新たに若い女性向けに『えんそくのしおり』(1～3号)を発行した。

●ホームページの公開

本年度は当館のホームページに331,030件(累計2,806,217件)、1日平均904件のアクセスがあった(前年度比で約117.6%)。また、1日の最大接続件数は3,415件(3月9日)であった。ホームページには本年度の特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開し、概ね特別展の開催期間や行楽シーズンに合わせてアクセスが増加する傾向であった。また、そのほかの各種普及事業に関わる案内をすべて掲載した。

また昨年度より運用を開始した携帯電話を対象とするモバイルサイト(上記ホームページアクセス件数に含まず)や、外部サービスを利用した「なにわ歴博ブログ」により、博物館情報などを発信した。

その他の広報宣伝事業

●スタンプカード

来館者の利用促進をはかるため、「大阪歴史博物館スタンプカード」を実施している。常設展示・特別展等を観覧するとスタンプの押印が受けられ、6個たまると小冊子『展示の見所』などと引き換えられるなどの特典がある。本年度はクリアファイルなどを特典に加えた。なお、特典の引き換え者は1,267名であった。

●なにわれきはく新聞

年に4回、小学校高学年と中学生を対象とした「なにわ歴博新聞」を発行している。入館時に小中学生全員に手渡す配布方法をとっている。3ヶ月ごとの刊行で、B4版両面印刷、各号12,000部、第17号から第20号までを発行した。内容はわくわく子ども教室の紹介、特別展等の案内、大阪ゆかりの人物紹介(なにわ人物誌)などである。

●関西文化の日への参加

前年度に引き続き平成23年度も「関西文化の日」への参加を行った。11月3日(木・祝)、4日(金)、5日(土)の3日間について、常設展示の観覧料を無料とした。3日間で計4,172名の観覧者があった。

●大阪歴史博物館図録フェア

当館の出版物を広報するため大阪歴史博物館および前身の大阪市立博物館の展示図録や資料集を一堂に展示・販売するブックフェアを、旭屋書店の協力を得て実施した。

・平成23年5月22日(日)～7月7日(木)

・旭屋書店 1階 特設コーナー

なおジュンク堂書店大阪本店の人文の新刊コーナーにおいて、年間をとおして当館の図録・資料集の常備販売を実施した。

刊行物

書名	概要	発行日
『大阪歴史博物館研究紀要 第10号』	A4版 178ページ	平成24年3月
『大阪歴史博物館館蔵資料集8 浪華勝概帖』	A4版 112ページ	平成24年3月
『共同研究成果報告書6』	A4版 64ページ	平成24年3月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の歴史に対する関心に応えるため、日常的な調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明にかかわる検討を行うことを目的としている。特に、当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は、共同研究においては4テーマを実施し、基礎研究に関しては1テーマについて行った。また、昨年度で一区切りとなった研究課題「高島多米治と下郷コレクションについて」（福田貝塚・椎塚貝塚）の成果を『共同研究成果報告書』6に収録した。各研究テーマは以下の通りである。

●共同研究

◇前期難波宮の造営・廃絶に関わる諸問題の再検討

担当：積山洋・寺井誠・李陽浩・豆谷浩之・杉本厚典・池田研・文珠省三・伊藤純・加藤俊吾

◇近世・近代大阪の河川・船・橋に関する調査研究

担当：八木滋、酒井一光、飯田直樹、大澤研一

◇大阪の近代美術工芸—明治維新から昭和戦前期へ—

担当：中野朋子、内藤直子、酒井一光
(外部研究員) 山崎剛 (金沢美術工芸大学准教授)、井上智勝 (埼玉大学准教授)

◇高島多米治と下郷コレクションについて—余山貝塚資料—

担当：加藤俊吾
(外部研究員) 阿部芳郎 (明治大学文学部教授)、栗島義明 (埼玉県立さきたま史跡の博物館)、樋泉岳二 (早稲田大学文学部兼任講師)

●基礎研究

◇大阪と江戸・東京との都市比較史研究

担当：豆谷浩之、八木滋

●難波宮跡の発掘調査

担当：積山洋・李陽浩・豆谷浩之、高橋工 (大阪文化財研究所学芸員)

史跡難波宮公園東側の、昨年度および一昨年度調査地の隣接地で、発掘調査を実施した。その結果、過去2年の調査で検出されていた後期難波宮建物基壇の東西端と北西角を確認し、基壇の規模が確定した。また平成23年12月24日には現地公開を開催した。

文部科学省科学研究費補助金による研究

◇基盤研究 (C) 研究代表者：李陽浩「古代東アジアにおける大型門に関する建築的研究」

◇基盤研究 (C) 研究代表者：八木滋「近世大阪における両替商の都市社会史的調査研究」

◇若手研究 (B) 研究代表者：飯田直樹「近代大阪における地域支配構造の二段階再編に関する研究」

◇若手研究 (B) 研究代表者：岩佐伸一「近世日本絵画における寄合描きの基礎的研究」

学芸員個人の調査研究活動

伊藤廣之

- ・専攻分野
 - (1) 日本民俗学
 - (2) 環境民俗論、都市民俗論
 - (3) 淀川における河川漁撈の研究、大阪の巨樹信仰の研究
- ・著述
 - 「西横堀における陶器祭と造り物一同業者街の祭りと社会」『大阪歴史博物館研究紀要』第10号、平成24年3月
 - 「田中緑江と郷土趣味社」『京都民俗』第29号、京都民俗学会、平成24年3月
- ・口頭発表
 - 「瀬戸物祭り」と陶器人形一同業者街の民俗」近畿民俗学会、平成23年7月17日
 - 「民俗芸能研究と行事伝承論—神の「新たな誕生」とアトマツリをめぐって—」平成23年度民俗芸能学会大会シンポジウム「民俗芸能研究における早川孝太郎の業績」、民俗芸能学会、平成23年11月5日
 - 「田中緑江と郷土趣味社」京都民俗学会30周年記念シンポジウム「『野』の学問100年京都編」、京都民俗学会、平成23年12月18日

文珠省三

- ・専攻分野
 - (1) 日本考古学
 - (2) 弥生時代研究
 - (3) 歴史資料を中心とした博物館展示の研究
- ・著述
 - 「博物館の現状と課題」「欧米と日本との相違」『博物館学Ⅰ』関西大学出版部、平成24年3月

積山洋

- ・専攻分野
 - (1) 考古学
 - (2) 東アジア都城、日本の塩業・漁業、牛馬、陶磁器など
- ・著述
 - 「難波宮」『大阪人』65号、平成23年4月
 - 「難波宮・京の廃絶とその後」『都城制研究』(6)、奈良女子大学古代学学術研究センター、平成24年3月
- ・口頭発表
 - 「難波廃都について」比較都城史研究会、平成23年11月10日、京都アスニー
 - 「大極殿の展開と後期難波宮」比較都城史研究会、平成24年1月8日、山口大学
 - 「難波京をめぐる宗教環境」第6回都城制研究集会、平成24年2月5日、奈良女子大学
 - 「長原遺跡と小字名」『平野区誌拾遺編』発刊記念シンポジウム、平成24年3月10日、平野区民ホール

大澤研一

- ・専攻分野
 - (1) 日本中世史
 - (2) 都市史、宗教史

(3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交流について

- ・著述
 - 「道からみた豊臣初期大坂城下町」『大阪歴史博物館研究紀要』第10号、平成24年3月
 - 「勝手に“堀越坂”」「忘れられた歴史の道」「再び坂の話」「上町台地を襲った地震」「夏の風物詩にちょっとご注意」「四天王寺の“かたち”と道」「上町台地に残された大阪城の石垣石(1)」「上町台地に残された大阪城の石垣石(2)」「お正月に大坂へやって来た出雲の神」「新登場!阿倍野区の2つの坂」「逢坂の道しるべ」『うえまち』No.73~82・84、平成23年4月~24年1月・3月
- ・口頭発表
 - 「戦国期本願寺教団と撰河泉」大阪市立大学日本史学会第14回大会、平成23年5月
 - 「都市大坂形成史のなかの四天王寺 中世末~近世を中心に」1617会四天王寺例会、平成23年10月
 - 「中世阿倍野周辺の道」阿倍野区歴史講座「中世時代の阿倍野区の場所を中心に歴史を考える」平成23年11月
 - 「和泉地域の「山の寺」」「山の寺」科研総括シンポジウム「中世「山の寺」研究の最前線」、平成23年12月

船越幹央

- ・専攻分野
 - (1) 日本近代史
 - (2) 近代都市における市民生活・文化・意識の研究
 - (3) ツーリズム・皇陵巡拝の研究、近代都市のイメージモデルとしての大阪・京都に関する研究
- ・著述
 - 「大阪における明治20年代の展望所を持つ施設について」『ザ・タワー~都市と塔のものがたり~』図録、江戸東京博物館、平成23年2月
 - 「大阪における明治20年代の展望所を持つ施設について」『江戸東京博物館調査報告書第26集 喜多川周之コレクション第2集』江戸東京博物館、平成23年3月
 - 『第3回大阪の問題集—大阪検定公式出題・解説集』(分担執筆)、創元社、平成24年3月

杉本厚典

- ・専攻分野
 - (1) 日本考古学
- ・著述
 - 「難波宮東部地域の発掘調査(その2)—謎は更に深まった—」『葦火』152号、平成23年6月
 - 「大阪平野における弥生・古墳時代のサイト・キャッチメント分析」『シンポジウム 都市と自然の歴史学—弥生時代から難波宮—』、平成23年10月
 - 「弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての河内地域における幼少者の埋葬とその位置づけについて」『大阪歴史博物館研究紀要』第10号、平成24年3月
 - 「第1章 遺跡の立地と周辺地域の歴史 2) 既往の調査からうかがえる弥生~平安時代の難波砂堆と今宮」『大阪市浪速区恵美須遺跡発掘調査報告』、平成24年3月
 - 「第1章 遺跡の立地と周辺地域の歴史 3) 文献等からうかがえる古代~江戸時代の今宮」『大阪市

- 浪速区恵美須遺跡発掘調査報告』、平成 24 年 3 月
- ・口頭発表
「大阪平野における弥生・古墳時代のサイト・キャッチメント分析」シンポジウム「大阪上町台地から都市を考える 3 都市と自然の歴史学 ―弥生時代から難波宮―」、平成 23 年 10 月
「大阪の歴史に学ぶエコライフ講演会縄文・弥生貝塚からみる大阪のくらし」大阪の歴史に学ぶエコライフ講演会、平成 23 年 10 月

飯田直樹

- ・専攻分野
(1) 歴史学
(2) 日本近現代史
(3) 大阪を中心とした地域社会構造史、大阪相撲史、消防史
- ・著述
「消防に「命をかけた」男・小林佐兵衛」『そなえ』600 号、平成 23 年 4 月
「大阪城天守閣復興と小学校学区制度廃止」『民都大阪の建築力』、大阪歴史博物館、平成 23 年 7 月
「民都大阪の建築力」の「民都」とは？」『大阪歴史』19・20 合併号、平成 23 年 8 月
「奥田伊兵衛」・「小林佐兵衛」『明治時代史大辞典』1、吉川弘文館、平成 23 年 11 月
『寄附事件記録』(大阪市中央公会堂蔵)について―都市民衆騒擾期における大阪財界の動向―『大阪歴史博物館研究紀要』第 10 号、平成 24 年 3 月
- ・口頭発表
「大阪城天守閣復興と学区制度廃止」、大阪歴史学会近代史部会・考古部会合同セッション、大阪歴史博物館、平成 23 年 9 月 10 日
「大阪城天守閣復興と学区制度廃止問題」、政治経済学・経済史学会秋季学術大会報告、立命館大学、平成 23 年 10 月 22 日
「近代大阪における警察社会事業と方面委員制度の創設」、研究会「大都市における警察行政と地域社会・地域支配―戦前期の東京と大阪の研究―」(主催：科研費研究「身分・身分的周縁と部落問題に関する地域史的研究」ほか)、大阪府教育会館、平成 24 年 3 月 11 日

澤井浩一

- ・専攻分野
(1) 畿内村落における祭祀組織の研究
(2) 近畿地方を中心とした芸能史研究
(3) 大正・昭和初期の大阪における興行史の研究
- ・調査活動
平成 23 年 7 月 大阪市内獅子舞調査、住吉大社鯨まつり調査
平成 23 年 8 月 錦影絵調査(大阪芸術大学池田組)
- ・著述
「浪花百景 うらえ杜若」『大阪松竹座五月興行番付』、平成 23 年 5 月
「浪花百景 天神祭り夕景」『大阪松竹座七月興行番付』、平成 23 年 7 月
「浪花百景 西照庵月見景」『大阪松竹座九月興行番付』、平成 23 年 9 月
「花暦浪花自慢 住吉初卯の日参」『大阪松竹座一

- 月興行番付』、平成 24 年 1 月
『第 3 回大阪の問題集―大阪検定公式出題・解説集』(分担執筆)、創元社、平成 24 年 3 月
『大阪の教科書 増補改訂版』創元社、平成 24 年 3 月(分担執筆)
- ・口頭発表
「大阪の狸ばなし―芸能と狸の関わりを中心に―」近畿民俗学会例会、大阪府立労働センター、平成 23 年 9 月 18 日

酒井一光

- ・専攻分野
(1) 建築史
(2) 歴史的建造物に関する研究
(3) 近代建築・寺社建築
- ・著述
「再読・関西近代建築 生駒ビルディング」『建築と社会』、日本建築協会、平成 23 年 7 月
「大大阪建築逍遥」『こころ』第 5 号、平凡社、平成 24 年 2 月

李陽浩

- ・専攻分野
(1) 建築史、都市史
(2) 東アジア古代建築史
(3) 建築技法からみた難波宮の復元的研究
- ・著述
「徳花里 2 号墳に描かれた特徴的な肘木について―高句麗時代建築の復元的研究 1―」『日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系(51)』、平成 23 年 6 月
「北魏洛陽永寧寺南門の上部構造についての復元的考察」『日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2、建築歴史・意匠 2011』、平成 23 年 7 月
「近年知られた百済の大型建物跡をめぐって―扶餘官北里遺跡と益山王宮里遺跡―」『建築史学』57 号、建築史学会、平成 23 年 9 月
「前期難波宮の小石敷きをめぐって―旧地表高さと建物復元についての一考察―」『郵政考古紀要』第 52 号、郵政考古学会、平成 23 年 12 月
「難波宮東部地域の発掘調査(その 3)」(高橋工氏と共著)『葦火』156 号、平成 24 年 2 月
「前期難波宮東方官衙の「楼閣風建物」をめぐる復元的考察」『大阪歴史博物館研究紀要』第 10 号、平成 24 年 3 月
- ・口頭発表
「徳花里 2 号墳に描かれた特徴的な肘木について―高句麗時代建築の復元的研究 1―」、日本建築学会近畿支部研究発表会、大阪工業技術専門学校、平成 23 年 6 月 18 日
「北魏洛陽永寧寺南門の上部構造についての復元的考察」、日本建築学会大会(関東)、早稲田大学、平成 23 年 8 月 25 日
「前期難波宮の小石敷きをめぐって―旧地表高さと建物復元―」、都城制研究会、大阪歴史博物館、平成 23 年 9 月 17 日
「再見! 難波宮の建築」、難波宮百花斉放シンポジウム、大阪市中央公会堂、平成 24 年 2 月 25 日

伊藤純

- ・専攻分野
(1) 日本の歴史
- ・著述
「亀有大谷田物語—昭和30年代の私—」、『足立史談』518～523号、足立区教育委員会、平成23年4月～9月
「大阪歴史散歩」(連載中)、『大阪日日新聞』、平成23年4/3高津宮・4/17四天王寺・5/1生国魂神社・5/15九条新道と安治川トンネル・5/29能勢街道・6/12住吉大社御田植神事・6/26都橋の碑・7/10東高津宮・7/24教育塔・8/7堂島薬師堂・8/21伏見橋・9/24油掛地蔵・9/18近松門左衛門の墓・10/2六道の辻・10/16玉出の滝・10/30折口信夫生誕の地・11/13大阪の水道・11/27出入橋・12/11馬車鉄道・12/25星合の池・平成24年1/8和光寺阿弥陀池・1/22通天閣・2/5本木昌造・2/19大阪の沖繩平尾・3/4舎密局・3/18齒神社
「浪花おもしろ図鑑」(連載中)、『産経新聞』夕刊、平成23年6/11大阪を観察し続けて80年・7/9道修町に謎の暗号?・8/13土佐藩鎮守の神から三菱の守護神へ・9/17油商人が帰りつく山崎・10/29知恵の象徴?はたまた…・12/10天空に広がる波・平成24年1/28究極のジグソーへの挑戦・3/17空に舞う翁
「仁徳天皇の事績」、『たかきや倶楽部通信』29、高津宮社務所、平成23年夏
「〈たかきや〉の歌をめぐって」『たかきや倶楽部通信』30、高津宮社務所、平成23年秋
「仁徳天皇の墓をめぐって」、『たかきや倶楽部通信』31、高津宮社務所、平成23年冬
「李王家博物館から柳宗悦の民芸運動へ—李王家博物館に学んだ人々—」、『柳宗悦展—暮らしへの眼差し—』、NHKプロモーション、平成23年9月
「李王家博物館と浅川巧—浅川兄弟の朝鮮文化理解の出発点—」、『友の会通信』100、大阪市立東洋陶磁美術館、平成24年1月
「民芸の美集結」、『大阪日日新聞』、平成24年1月25日
『第3回大阪の問題集—大阪検定公式出題・解説集』(分担執筆)、創元社、平成24年3月
「近世大阪の痲疹対策—『神仏靈験記図会』を中心に—」、『大阪歴史博物館研究紀要』10号、平成24年3月
- ・その他
〔大阪写真月間2011 写真家150人の一坪展〕に「天保山散歩」出品 オリンパスギャラリー 平成23年6月2日～6月8日

八木滋

- ・専攻分野
(1) 日本近世史
(2) 流通社会史、都市史
(3) 近世大阪の市場社会
- ・口頭発表
「青物市に関わる人びと」上海大学文学院・大阪市立大学大学院文学研究科共催国際シンポジウム「東アジアにおける都市社会史への視点—上海と大阪を中心に—」平成24年3月1日、上海大学「近世大阪の青物流通と市場社会」イェール大学

東アジア研究委員会主催特別シンポジウム「City and Region in Japanese History」平成24年3月27日、米国イェール大学

豆谷浩之

- ・専攻分野
(1) 日本近世史、近世考古学
(2) 近世都市史
(3) 大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較
- ・著述
「慶長三年における大坂城下の改造をめぐって—『西笑和尚文案』所収史料を中心に—」『大阪歴史博物館研究紀要』第10号、平成24年3月
- ・調査活動
島根県益田市における中近世都市遺跡の現地踏査、平成23年8月
佐賀県唐津市における肥前名護屋城・城下町跡の現地踏査、平成24年2月

寺井誠

- ・専攻分野
(1) 考古学
(2) 弥生～飛鳥時代の日本と朝鮮半島の交流史
(3) 日本出土の朝鮮半島系土器
- ・著述
「西日本における竪穴建物の変遷過程—弥生時代後期から古墳時代中期前半を中心に—」、『日韓集落の研究—弥生・古墳時代および無文土器—』(最終報告書)、日韓集落研究会、平成24年3月
「長原・八尾南遺跡出土の甗の系譜」、『大阪歴史博物館研究紀要』第10号、平成24年3月
- ・口頭発表
「弥生時代から古墳時代にかけての竪穴建物の変遷過程—西日本の弥生時代後期から古墳時代中期前半を中心に—」、日韓集落研究会、京畿道博物館(大韓民国京畿道龍仁市)、平成23年8月
「邪馬台国時代の北部九州と近畿」、第22期大阪市いちょう大学「歴史と考古学」コース、平成23年10月
- ・調査活動
岡山県内出土の朝鮮半島系土器の調査 平成23年8月
長崎県壱岐市原の辻遺跡出土の中国系・朝鮮半島系土器の調査 平成23年9月
大韓民国全羅北道・忠清南道における遺跡踏査・遺物調査 平成23年10月
大韓民国全羅南道・慶尚南道における遺跡踏査・遺物調査 平成23年12月

中野朋子

- ・専攻分野
(1) 美術史・服飾史
(2) 上代製の文様研究、近世服飾史、結髪史
(3) 近世後期の京坂における服飾・風俗動向、特に結髪を中心とした女性のよそおい文化についての調査研究
- ・著述
「一雑誌「主婦之友」にみる—東京・大阪ファッ

ション事情』、『開館 10 周年記念 特別展「心齋橋
きもの モダン ー煌めきの大大阪時代ー」図録』、
平成 23 年 10 月 15 日

- ・口頭発表
「大大阪時代のモダンガール」、近代大阪美術研究
会、平成 23 年 12 月 4 日

加藤俊吾

- ・専攻分野
(1) 考古学・考古学史
(2) 金属器生産に関わる研究
(3) 古代～近世における鑄鏡研究
- ・著述
「辰馬考古資料館および天理参考館所蔵の福田・
椎塚貝塚関連資料」『共同研究成果報告書』6、平
成 24 年 3 月
- ・調査活動
高島多米治採集資料現地踏査（千葉県銚子市余山
貝塚）、平成 23 年 10 月 22 ～ 23 日

内藤直子

- ・専攻分野
(1) 美術史
(2) 日本金工史
(3) 刀装具を中心とした細密工芸研究
- ・著述
「『装剣奇賞』230 年—刀装具と根付 細密工芸の
世界」『目の眼 427 号』平成 24 年 2 月
「『装剣奇賞』の成立と展開について」『大阪歴史
博物館研究紀要』第 10 号、平成 24 年 3 月
- ・口頭発表
「近代工芸と『地方』をめぐる諸問題 大阪の事
例から」、シンポジウム「近代工芸と『地方』を
めぐる諸問題」、(主催：大阪歴史博物館 後援：
美術史学会)、平成 23 年 5 月 8 日

池田研

- ・専攻分野
(1) 考古学
(2) 貝類を中心とした動物遺存体
- ・著述
「貝類」『佐賀藩蔵屋敷跡発掘調査報告』、大阪文
化財研究所、平成 24 年 3 月
「貝類」『難波京朱雀大路跡発掘調査報告』、大阪
文化財研究所、平成 24 年 3 月
「難波 1 丁目所在遺跡 B 地点 (NB10 - 2 次) 調査
出土の貝類」『難波 1 丁目所在遺跡 B 地点発掘調
査報告』、大阪文化財研究所、平成 24 年 3 月
- ・口頭発表
「大坂城下町跡出土の貝類研究の現状と課題」、動
物考古学研究会、奈良文化財研究所、平成 23 年
11 月 26 日
「大阪における中・近世の遺跡から出土する貝類」、
『天下の台所「大坂」—魚食文化の歴史を探る』
講演会、弥生文化博物館、平成 24 年 1 月 21 日

岩佐伸一

- ・専攻分野
(1) 美術史
(2) 日本絵画史

(3) 江戸時代後期の上方絵画

- ・著述
「円山派と四条派による寄合描き「秋七草図」に
ついて」『大阪歴史博物館研究紀要』第 10 号、平
成 24 年 3 月

委嘱・派遣依頼対応

●委嘱

日付	名称	担当者
平成23年4月1日～平成24年3月31日	国際日本文化研究センター共同研究員	脇田修
平成23年4月1日～平成24年3月31日	日本博物館協会評議員	脇田修
平成23年4月1日～平成24年3月31日	文案因協会理事	脇田修
平成23年4月1日～平成24年3月31日	山口県史編纂委員会副会長	脇田修
平成23年4月1日～平成24年3月31日	金沢城調査研究会委員	脇田修
平成23年4月1日～平成24年3月31日	大阪検定企画会議委員	大澤研一
平成23年4月1日～平成24年3月31日	和泉市史編さん調査執筆委員	飯田直樹
平成23年4月1日～平成24年3月31日	関西大学大阪都市遺産研究センター非常勤研究員	澤井浩一
平成23年8月1日～平成24年3月31日	香芝市文化財保護審議会委員	伊藤純
平成23年8月2日	「第六回お守り刀展覧会」審査会審査員	内藤直子
平成23年11月1日～平成24年3月31日	同志社大学ハリス理化学館新島記念ギャラリー設置検討委員会オブザーバ	船越幹央
平成23年12月1日～平成24年3月31日	あおぞら財団附属西淀川・公舎と環境資料館運営協議会委員	船越幹央
平成23年12月22日	文化庁文化財買取協議員	文珠省三
平成24年1月19日	文化庁文化財買取協議員	中野朋子
平成24年2月24日	京都国立博物館文化財評価員	中野朋子

●大学での非常勤講師への派遣

大学・研究機関名	科目等	担当者
大阪経済大学	考古学	寺井誠
大阪大学	博物館学	澤井浩一
同志社大学	文化史基礎演習	船越幹央
大阪芸術大学	服飾史	中野朋子
関西大学	博物館実習	文珠省三
関西大学 大阪都市遺産研究センター	大阪都市遺産の史的検証と継承・発展・発信を目指す総合的研究拠点の形成	澤井浩一

●派遣依頼対応

日付	派遣先	担当者
平成23年4月23日	近畿文化会／「淀川の舟運と枚方宿」	大澤研一・李陽浩
平成23年5月21日	宗教法人四天王寺／四天王寺仏教文化講演会	寺井誠
平成23年6月4日	淀川河川事務所／淀川発見講座「淀川のなりたち」淀川探訪	大澤研一・八木滋
平成23年6月4日	大阪市立東洋陶磁美術館／特別展「浅川伯教・巧兄弟の心と眼展」講演会	伊藤純
平成23年6月10日	朝日放送／テレメンタリー2011「古文書が語る巨大地震」	大澤研一
平成23年6月28日	南大江女性会／「もうちょっと知りたいねん〜水の都とくらし〜」	大澤研一
平成23年7月17日	大阪歴史懇談会／「江戸時代の大坂武士の生き方」	八木滋
平成23年8月17日・12月14日	NPO法人シニア自然大学校／シニア CITY カレッジ「前期、後期難波宮を考える」	積山洋
平成23年9月6日	社団法人清交社／「民都大阪の建築力」	酒井一光
平成23年9月6日～14日	山口大学人文学部／平成23年度科学研究費補助金「比較史的観点からみた日本と東アジア諸国における都城制と都城に関する総括的研究」現地調査（中華人民共和国河北省・内モンゴル自治区）	積山洋
平成23年9月14日	はびきの市民大学／「大阪相撲の歴史」	飯田直樹
平成23年9月16日	財団法人大阪観光コンベンション協会／特別展「民都大阪の建築力」・旧第四師団司令部庁舎解説	酒井一光
平成23年9月17日・11月19日・平成24年1月21日・2月18日・3月17日	喜連村史の会／古文書を読む会	豆谷浩之
平成23年9月21日	KKR ホテル大阪／大阪城祭記念講演会「難波遷都と難波宮」	積山洋
平成23年9月27日	ウェーブ産経／五感で味わう！大阪まち歩きまち遊び「近代の歩みを学び、建築物をめぐる」	船越幹央
平成23年10月1日	鹿儿島県歴史資料センター黎明館／企画特別展「大阪がやってきた！」学芸講座「大正時代のモダン建築と繁華街」	船越幹央
平成23年10月7日	大阪府立高津高等学校／教師のための講演会 from 高津「上町台地の歴史通覧」	豆谷浩之
平成23年10月15日	大阪商業大学商業史博物館／お金の日本史「中世東アジアの銭貨流通と機能」	大澤研一
平成23年10月21日	社団法人大阪府建築士会／「知られざる名建築家 増田清 作品ツアー」	酒井一光
平成23年10月31日	大阪市立総合生涯学習センター／いちょう大学「歴史と考古学」コース「邪馬台国の時代の北部九州と近畿」	寺井誠
平成23年11月3日	京都造形芸術大学／秋の収穫祭（大阪）「大正時代の政治と文化ー大阪城天守閣の復興をめぐるー」	飯田直樹
平成23年11月6日	吹田市立博物館／吹田市無形民俗文化財指定記念展『どんじ祭り』講演会「一夜官女とその周辺ー淀川河口部地域の民俗文化」	澤井浩一
平成23年11月8日	桃山学院大学／MOMOYAMA エクステンションカレッジ「ミナミとキタの近代」	船越幹央
平成23年11月10日	財団法人大阪府環境事業協会／なにもわ友あれ環境塾「農業・漁業におけるリサイクルとリユース」	伊藤廣之
平成23年11月15日	桃山学院大学／MOMOYAMA エクステンションカレッジ「大阪城天守閣復興について」	飯田直樹
平成23年11月21日・22日	島根県埋蔵文化財調査センター／発掘調査の調査指導	寺井誠
平成23年11月23日	大阪城天守閣／大阪城天守閣復興80周年記念学術シンポジウム「大阪城天守閣復興の意味を問う」	酒井一光
平成23年11月26日	大阪府教職員互助組合／歴史セミナー～大阪の歴史と文化を学ぶ～「難波宮概説と最近の発掘時のトピックス」	李陽浩

平成23年11月28日	桃園女性会／「難波宮で語る大阪の古代」	積山洋
平成23年11月29日	大阪市阿倍野区／地域協働学習プログラム事業・阿倍野区歴史講座～中世時代の阿倍野区の場所を中心に歴史を考える～「中世阿倍野周辺の道」	大澤研一
平成23年12月2日	大阪市天王寺区／天王寺区生涯学習講座「歴史講座－古文書で読み解く江戸時代の大阪の町－」	八木滋
平成23年12月5日	松琴会／都市美形成建築物所有者ネット研究会講演会「尼崎界隈の煉瓦建造物と煉瓦について」	酒井一光
平成23年12月11日	近畿文化会／「富田林寺内町と今井町」	大澤研一
平成23年12月12日	朝日放送／ザ・スクープスペシャル「古文書と考古学が語る巨大地震」	大澤研一
平成23年12月14日	テレビ大阪／ニュースBIZ「ナゾ解き OSAKA」大阪の道路、東西は『通り』と呼ぶのに、なぜ南北は『筋』というのか？」	大澤研一
平成23年12月17日	財団法人松原市文化情報振興事業団／秋季歴史講座「大阪相撲と村相撲」	飯田直樹
平成24年1月7日・8日	山口大学人文学部／平成23年度科学研究費補助金「比較史的観点からみた日本と東アジア諸国における都城制と都城に関する総括的研究」共同研究会	積山洋
平成24年1月8日	都島区老人クラブ連合会／生きがいづくり上映会「大阪百景」解説	船越幹央
平成24年1月21日	公益財団法人大阪府文化財センター／「貝は語る」講演「掘り出された貝」	池田研
平成24年1月21日	大阪市城東区／城東区生涯学習地域協働プログラム「城東歴史探偵団学習会「淀川改修と歴史街道（旧中津川跡めぐり）」	八木滋
平成24年1月28日	岸和田市教育委員会／歴史講座「岸和田城下町の成立」	大澤研一
平成24年1月30日	帝塚山大学／特別講義「難波宮と日本古代都城」	積山洋
平成24年2月3日	大阪市立市民交流センターすみよし北／「神社建築のかたち～伊勢、出雲、住吉～」	李陽浩
平成24年2月8日	大阪市天王寺区／天王寺区生涯学習講座「歴史講座－豊臣秀吉の大坂城下町建設と四天王寺地域－」	大澤研一
平成24年2月17日・2月24日	守口市立三郷公民館／市民教養講座「淀川と暮らす」	大澤研一
平成24年2月18日	大阪市史編纂所／平野区に関するフォーラム「ひらの～昔と今～」	大澤研一
平成24年2月24日	大阪市教育センター／教職員人権研修（南ブロック）地域研修会「柳宗悦の『民芸の世界を知る』」	伊藤純
平成24年2月25日	Club Tap／「大阪の建築を歩く（2）－堺筋界隈」	酒井一光
平成24年3月9日	公益財団法人平野区画整理記念会館／住民大学講座「考古資料に見る暦年－おおさかの“その時”を語る」	積山洋
平成24年3月10日	平野区誌刊行委員会／『平野区誌拾遺集』発刊記念シンポジウム	積山洋
平成24年3月11日	公益財団法人大阪府文化財センター／シンポジウム「天下の台所『大坂』－魚食文化の歴史を考える－」基調講演「大坂における中・近世の遺跡から出土する貝類」	池田研
平成24年3月18日	プレーカーププロジェクト実行委員会／ラウンドテーブル「ひと・場所・アート」	船越幹央

視察対応一覧

日付	来訪者	人数	担当者
平成23年9月14日	上海博物館	4	李陽浩
平成24年2月6日	国立民族学博物館	5	伊藤廣之・内藤直子・中野朋子
平成24年2月16日	沖縄県平和祈念資料館	3	森永公子
平成24年2月18日	東京都埋蔵文化財センター	1	寺井誠
平成24年3月1日	ベトナム国立歴史博物館	4	伊藤廣之・船越幹央
平成24年3月23日	名護博物館	3	船越幹央

平成23年度 大阪歴史博物館入場者数

月	H23年度 常設展					H23年度 特別展					合計	その他入場
	有料		無料観覧者	常設展計	有料		無料観覧者	特別展計				
	一般	高・大生			一般	高・大生						
4	4,988	148	5,136	5,445	10,581	1,702	100	1,802	3,893	5,695	16,276	4,626
5	7,403	547	7,950	9,862	17,812	5,548	290	5,838	9,893	15,731	33,543	6,269
6	7,458	405	7,863	11,313	19,176	0	0	0	0	0	19,176	7,319
7	8,014	584	8,598	4,412	13,010	699	51	750	1,045	1,795	14,805	9,235
8	11,090	824	11,914	6,019	17,933	2,471	236	2,707	3,829	6,536	24,469	6,697
9	6,608	341	6,949	5,537	12,486	2,680	284	2,964	3,750	6,714	19,200	8,443
10	7,582	1,293	8,875	10,260	19,135	746	38	784	4,799	5,583	24,718	6,975
11	6,559	1,180	7,739	17,275	25,014	2,006	124	2,130	11,870	14,000	39,014	7,763
12	5,073	677	5,750	7,473	13,223	520	68	588	2,598	3,186	16,409	5,677
1	5,951	560	6,511	6,159	12,670	4,031	171	4,202	6,022	10,224	22,894	6,292
2	7,106	405	7,511	7,526	15,037	7,391	316	7,707	8,727	16,434	31,471	6,335
3	9,170	401	9,571	7,480	17,051	1,601	169	1,770	2,009	3,779	20,830	7,309
合計	87,002	7,365	94,367	98,761	193,128	29,395	1,847	31,242	58,435	89,677	282,805	82,940

*その他入場者数には、2・4階貸し室利用者数、4階講堂での各種講演会・イベント参加者数、1階エントランスでの「わくわく子ども教室」参加者数などが含まれる。

条 例 と 規 則

○大阪歴史博物館条例

平成 13 年 4 月 1 日
条例第 60 号
大阪歴史博物館条例を公布する。
大阪歴史博物館条例

(設置)

第 1 条 大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市中央区大手前 4 丁目に設置する。

(目的)

第 2 条 博物館は、大阪の歴史及び文化に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第 3 条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 大阪の歴史及び文化に関する実物、標本、模写、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
- (2) 大阪の歴史及び文化に関する展覧会、講演会、講習会、研究会等を開催すること
- (3) 市民の生涯学習の機会を提供すること
- (4) 大阪の歴史及び文化に関する相談を受け、及び情報を提供すること
- (5) 博物館資料を貸し出すこと
- (6) 博物館資料及び遺跡に関する調査研究を行うこと
- (7) 他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

(資料の寄贈又は寄託)

第 4 条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

(休館日)

第 5 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
 - (2) 12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで
- 2 前項の規定にかかわらず、第 15 条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。
- 3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第 6 条 博物館の供用時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。

2 前条第 2 項及び第 3 項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第 2 項中「前項」とあるのは「第 6 条第 1 項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第 3 項中「前項」とあるのは「第 6 条第 2 項の規定により読み替えられた第 5 条第 2 項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第 7 条 別表第 1(省略)に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第 8 条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団の利益になるとき
- (5) その他不適当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第 9 条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第 7 条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

(意見の聴取)

第 10 条 指定管理者は、必要があると認めるときは、第 8 条第 4 号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定による求めがあったときは、第 8 条第 4 号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(入館の制限)

第 11 条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

(特別研究の許可)

第 12 条 博物館資料について特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(貸出しの許可)

第 13 条 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(利用料金)

第 14 条 教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。

2 博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 17 条第 1 項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これ

に準ずるものを含む。)の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

3 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料 1人1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 貸出料 その都度教育委員会が定める額
- (3) 施設使用料 別表第1(省略)に掲げる金額(施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める金額)

4 日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の2割増しの範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

5 施設の使用許可を受けた者(以下「使用者」という。)が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前2項の規定による金額の5割増しの範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

6 教育委員会は、前3項の承認(貸出料の額に係るものを除く。)を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

7 指定管理者は、教育委員会が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、利用料金を減額し、又は免除することができる。

8 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

- (1) 災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
- (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
- (3) その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき

(管理の代行)

第15条 博物館の管理については、地方自治法(昭和22年法律第67号。以下「法」という。)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体(以下「法人等」という。)であって教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

第16条 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

第17条 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

- (1) 破産者が復権を得ないもの
- (2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消しの日から2年を経過しないもの
- (3) その役員(法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。)のうちに、次のいずれかに該当する者があるもの

ア 第1号に該当する者

イ 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者

ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

第18条 教育委員会は、第16条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの(以下「指定管理予定者」という。)として選定してはならない。

- (1) 住民の平等な利用が確保されること
- (2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること
- (3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

第19条 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。

(業務の範囲)

第20条 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第3条各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること
- (2) 建物及び設備の維持保全に関すること
- (3) その他博物館の管理に関すること

(施行の細目)

第21条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(平成13年11月3日施行、告示第1155号)抄

(施行期日)

1 この条例の施行期日は、市長が定める。

(大阪市立博物館条例の廃止)

2 大阪市立博物館条例(昭和35年大阪市条例第35号)は、廃止する。

附 則(平成17年9月22日条例第108号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第342号)

この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第18条の次に6条を加える改正規定(第20条から第22条まで及び第23条前段に係る部分に限る。)は、公布の日から施行する。

附 則(平成19年12月28日条例第106号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成21年11月26日条例第129号)

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第8条中第3号の次に1号を加える改正規定及び第9条の次に1条を加える改正規定は、平成22年1月1日から施行する。

2 この条例による改正後の大阪歴史博物館条例(以下「改正後の条例」という。)第14条第3項から第5項までの規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、これらの規定及び改正後の条例第14条第6項の規定の例により行うことができる。

別表第2

	区分	普通観覧料	団体(20人以上)観覧料
常設展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特別展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

○大阪歴史博物館条例施行規則

平成18年3月31日

(教)規則第5号

大阪歴史博物館規則(平成13年大阪府教育委員会規則第34号)を次のように改正する。

大阪歴史博物館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大阪歴史博物館条例(平成13年大阪府条例第60号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

(博物館資料の寄贈等の申出)

第2条 条例第4条の規定により大阪歴史博物館(以下「博物館」という。)に条例第3条第1号の博物館資料(以下「博物館資料」という。)を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料(以下「寄託資料」という。)の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料の取扱い)

第3条 寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。

2 寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。

(利用料金の納付時期)

第4条 条例第14条第1項に規定する利用料金(以下「利用料金」という。)は、あらかじめ条例第5条第2項に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)が定める日までに支払わなければならない。

(附属設備の利用料金)

第5条 条例第14条第3項の教育委員会規則で定める附属設備の種類及び金額は、別表(省略)のとおりとする。

(指定申請の方法)

第6条 条例第16条第1項の規定による通知を受けた法人等(法人その他の団体をいう。以下同じ。)は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

(1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書(法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類)

(2) 役員(法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。)の名簿及び履歴書

(3) 条例第16条第2項の規定による申請(以下「指定申請」という。)の日の属する事業年度の前3事業年度における財産目録及び貸借対照表(法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類)。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあつては、その設立時における財産

目録(法人以外の団体にあつては、これに相当する書類)とする。

(4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書(法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類)

(5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類

(6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類

(7) 条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類

(8) 指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書

(9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

(資料の提出の要求等)

第7条 教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

(事業報告書の記載事項等)

第8条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第7項の事業報告書(以下「事業報告書」という。)には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者の代表者がこれに記名押印しなければならない。

(1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先

(2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること

(3) 条例第20条各号に掲げる業務の実施状況

(4) 博物館の利用者数その他の利用状況

(5) 博物館の管理に要した経費等の収支の状況

(6) その他教育委員会が必要と認める事項

2 指定管理者は、毎年度終了後(地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあつては、当該取消しの日後)2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

(損害賠償等)

第9条 博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出の許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(補助執行)

第10条 市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助執行させることとした場合においては、第11条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長(大阪市事務分掌条例第1条に掲げる局及び室の長をいう。)」と読み替えるものとする。

(施行の細目)

第11条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 大阪歴史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則(平成17年大阪府教育委員会規則第26号)は、廃止する。

附 則(平成22年3月26日(教)規則第11号)

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

運 営 組 織

運 営

大阪歴史博物館は、財団法人大阪市博物館協会が指定管理者として、管理代行を行った。

組 織

館長 脇田 修
副館長兼総務課長 森永公子

総務課

統括主任 藤田正和
係員 塩野正雄 高浜さゆり 柳本牧紀
川端優子 勝本千賀

運営課

課長 文珠省三（財団法人大阪市博物館協会総務部と兼務）

企画広報課

課長 大澤研一（財団法人大阪市博物館協会総務部と兼務）

企画広報係 係長 船越幹央
係員 杉本厚典 飯田直樹
柴田晃子

情報資料係 係長 澤井浩一
係員 酒井一光 李 陽浩
小林佳美 宮下愛子

学芸課

課長 伊藤廣之
課長代理 積山 洋
学芸第1係 係長 伊藤 純
係員 八木 滋
学芸第2係 係長 豆谷浩之
係員 寺井 誠 中野朋子
学芸第3係 係長 加藤俊吾
係員 内藤直子 池田 研
岩佐伸一

人 事

転 出

企画広報課企画広報係 宮本康治
財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所
（平成23年4月1日）

転 入

企画広報課企画広報係 杉本厚典
財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所
（平成23年4月1日）

新規採用者

総務課
係員 塩野正雄（平成23年4月1日）
企画広報課企画広報係
係員 柴田晃子（平成23年4月1日）

